

第1回臨時理事会

【発信日】2020年4月6日（月）（電磁的記録による）

【議 題】2020年度新規会員校の入会について

2020年度新規会員校5校の入会について、2020年4月11日までに理事全員から電磁的記録により同意の意思表示を、監事全員から電磁的記録により異議がない旨の意思表示を得たので当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

第1回定例理事会

【日 時】2020年4月25日（土） 13時00分～16時00分（Web会議）

【審議事項】

1. 新型コロナウイルス感染症に関する対応について

1) 新型コロナウイルス感染症予防に関する各大学の対応と課題について

調査については日本看護系大学協議会で2度実施しており、日々状況が変わる中、会員校への負担を鑑み調査を実施することは控えることとし、要望書を関係団体へ送付することとなった。

2) 新型コロナウイルス感染症対策による事務局職員の勤務体制について

申し合わせ事項に基づき説明があり承認された。

2. 2020年度社員総会について

開催方法について審議し次回理事会で継続審議することとなり、議事次第は承認された。

3. 2020年度役員候補者選出選挙の経過

選挙の進捗について報告があり、立会人について神奈川工科大学の前山直美氏の推薦があり承認された。

4. 2019年度事業活動報告、予算執行について

各委員会より報告があった。

5. 2019年度決算案について

荒木田美香子監事、鎌倉やよい監事より、新型コロナウイルス感染症対策として事業の拡充などに充てることなどを検討したほうが良いと意見が出された。また長澤正志財務担当理事より詳細な説明があった。

6. 2020年度重点事業（案）について

新型コロナウイルス感染症について追記することなどが審議された。

7. 2020年度事業活動計画案について

新型コロナウイルス感染症対策として、私立大学は新しい大学も多く教育のリソースが脆弱な学校もあり、経済状況が厳しい学生も多くいるので、協会として何かできないか各委員会において再度検討し次回理事会で再検討することとなった。

8. 2020年度予算案について

委員会予算は精査して算出するよう各委員会に依頼した。

9. 日本看護学教育評価機構への協力体制の方針について

現時点では新型コロナウイルス感染症の影響もあり審査についても見通しを立てるのは難しく金銭的な協力については現理事会で決定することは困難であると意見が出され、次期理事会にお

いて継続審議していくことが決定した。

【報告事項】

1. Nursing Now キャンペーンの延長について
2. 研究助成事業研究期間の延長、研究計画の変更について

若手研究者研究助成の変更について、研究助成事業規程施行細則第9条に基づき、委員会審議の結果3名の申し入れを認めることとしたと報告された。

3. 会長表彰について

第2回臨時理事会

【日 時】2020年5月31日（日） 9時30分～13時10分 （Web会議）

【報告事項①】

1. 役員候補者選出選挙経過と結果について

出野慶子選挙管理委員長より選挙人・被選挙人の登録状況、投票結果、投票状況等の報告があった。

【審議事項】

1. 選出された新役員候補者の確認と今後の進め方について

役員候補者選出規程について次回理事会で再度検討することとなった。

2. 2020年度社員総会の開催計画及び総会までの進行案について

新型コロナウイルス感染症を考慮し例年のような対面では開催しないことを確認した。次回理事会において、議題書、指名理事などについての詳細な資料を示し、具体的の方法を検討することとなった。

3. 2019年度決算（案）について

前回理事会において示した決算書より、預り金を微修正したと説明があり決算は承認された。

4. 2020年度重点事業（案）について

前回理事会の審議を踏まえCOVID-19について修正したと説明があり承認された。

各委員会は新型コロナウイルス感染症に関する対応を再度検討し次期理事会において継続審議することとなった。

5. 2020年度事業活動計画（案）について

各委員会は新型コロナウイルス感染症に関する対応を再度検討し次回理事会において継続審議することとなった。

6. 2020年度予算（案）について

事業費に学生支援等を目的としたCOVID-19対策費を計上することが提案され次回理事会において継続審議することとなった。

7. 会員校の入退会について

湘南医療大学の入会が承認された。

8. 2020年度研究助成事業選考委員について

2020年度研究助成事業選考委員の委嘱について承認された。

【報告事項②】

1. 文部科学省、厚生労働省、病院等関連機関への要望書提出について

2. 日本看護学教育評価機構への協力について
3. 若手研究者研究助成の研究計画の変更について

若手研究者研究助成の変更について、委員会審議の結果 2019 年度若手研究者研究助成採択者 2 名の申し入れを認めることとしたと報告された。

第3回臨時理事会

【日 時】2020 年 6 月 14 日（日） 13 時 00 分～15 時 00 分（Web 会議）

【審議事項】

1. 2020 年度社員総会について

社員総会までのスケジュール、議決権行使書による社員総会の開催、指名理事の承認の方法、社員総会後の対応について説明があり承認された。

2. 監査報告について

鎌倉やよい監事より監査報告があり、別添の意見書に基づき、2020 年度予算において新型コロナウイルス感染症に関連した対策などを事業計画に適正に反映させること、研修会の動画配信について活用実績を理事会に報告するとともに向上させること、事務局職員の休日出勤数の改善の 3 点について指摘された。

3. 2020 年度事業活動計画（案）について

各委員会より新型コロナウイルス感染症への対応を計画に加えたと説明があり承認された。

4. 2020 年度予算（案）について

新型コロナウイルス感染症に関する費用について 2,000 万円計上することが提案され承認された。

5. 入会・退会規程案の検討について

入会規程を全部改定し「入会・退会規程」とする案であったが、定款との整合性を保つ必要から、「入会規程」の改正とし、内容として退会を含むこととなった。施行は 6 月 15 日とすることとなった。

【報告事項】

1. 規程の改正について
2. 内部監査について
3. Nursing Now キャンペーン期間の延長について

第2回定例理事会

【日 時】2020 年 7 月 24 日（金） 11 時 30 分～12 時 00 分（Web 会議）

代表理事の選定について

河口てる子氏を代表理事とすることについて提案があり、出席した理事の全員一致をもって承認決され、河口てる子理事はその就任を承諾した。

【審議事項】

1. 2020 年度日本私立看護系大学協会組織について

副会長は島袋香子理事、山本あい子理事、業務執行理事 2 名のうち財務担当は長澤正志理事、業務担当は三国久美理事となった。また各委員会の担当を決定した。

2. 2020 年度研究助成事業について

1) 研究助成事業規程施行細則の改正について

事務局より説明があり承認された。

2) 2020 年度研究助成事業採択者について

選考委員会の推薦のとおり、看護学研究奨励賞 7 件、若手研究者研究助成 10 件、国際学会発表助成 5 件を採択することが承認された。

第 4 回臨時理事会

【日 時】2020 年 9 月 7 日（月） 15 時 00 分～17 時 00 分（Web 会議）

【審議事項】

1. 今期の活動方針について

本協会独自の活動を継続することが重要である。例えば大学教育委員会の新任教員のための研修会や、大学運営・経営委員会が実施している看護学教育の実態調査のお金の設問項目は、私学にとって有益な情報なので会員校に情報提供していきたい。特に実習経費の問題は地域差があるので地区活動の在り方など合わせて審議していく必要がある。さらに今年度は新型コロナウイルス感染症について対策費の支援を実施する。

2. 日本看護学教育評価機構への協力について

過去 3 年間検討を重ねてきた結果、会員校の同意が得られていない現時点においては金銭的なサポートはしないこととなった。今後、支援するためには日本看護学教育評価機構の財政状況の情報公開が必要であるので、評議情報の公開を促すこととなった。

3. 新型コロナウイルス感染症対策費の執行方法について

1 校 10 万円を給付し、経済的困難に陥っている学生に給付金として執行することとなった。

4. 会員校以外の方の有料による研修会参加について

定款に記載されている本協会の事業目的と照らし合わせると看護学発展のために会員校以外にも公開することは可能であるが、会員校の特権がなくなるので、有料による会員校以外の研修会参加は認めないこととなった。

5. 各委員会活動について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、前年度に企画された研修会の開催方法などを変更し、予算を見直した結果、予算の削減が見込まれるので、新たな事業活動計画に沿い補正予算を組む必要があれば検討することとなった。

第 3 回定例理事会

【日 時】2020 年 12 月 25 日（金）15 時 00 分～18 時 00 分（Web 会議）

【審議事項】

1. 2021 年度事業活動計画と 2020 年度事業活動報告について

各委員長から説明があり 2021 年度事業活動計画は次回理事会において継続審議することとなった。

2. 補正予算について

長澤正志業務執行理事より説明があり補正予算は組まないこととなった。

3. 規程の改正について

- ・委員会規程新旧対照表（案）、情報公開規程新旧対照表（案）、個人情報保護に関して新旧対照表（案）、会長表彰規程新旧対照表（案）、推薦書（修正案）、表彰状（修正案）、経理規程施行細則新旧対照表（案）、専任職員就業規則新旧対照表（案）、有期雇用職員就業規則新旧対照表（案）は承認された。
- ・研究助成事業規程施行細則新旧対照表（案）、推薦書（改定案）は承認された。2021 年度研究助成事業募集要項（案）、2021 年度研究助成事業募集要項新旧対照表（案）について、各助成の選考基準は「得点の高い優れた研究を助成対象とする。」と修正し承認された。看護学研究奨励賞の採択数を 5 件から 10 件へ増やす案について審議され、承認された。委員会で奨励賞と研究助成の在り方を整理し、若手研究者研究助成の採択者数などについて引き続き検討することとなった。
- ・会長表彰規程新旧対照表（案）は、（被表彰者の決定）第 5 条 会長は会員校から「推薦のあった者を承認し、理事会に報告する。」を「推薦のあった者を被表彰者として決定し、理事会に報告する。」と修正し承認された。
- ・経理規程施行細則別表 1 勘定科目表（案）は経常費用（事業費）にも減価償却費を加えることが提案され承認された。

4. 2021 年度研究助成事業選考委員について

2021 年度研究助成事業選考委員について承認された。

5. ホームページの改修について

コーディア株式会社に委託することが承認された。

【報告事項】

1. 中期決算について
2. 新型コロナウイルス感染症禍に伴う学生支援給付金について
3. 事務所の立ち退きについて
4. 文部科学省高等教育局医学教育課への情報提供について
5. 新型コロナウイルス感染症にかかる関係各所からの調査、要望書等について
6. 2021 年度社員総会について（運営方法と付帯事業・講演会について）

第 4 回定例理事会

日時：2021 年 3 月 30 日（火） 12 時 30 分～15 時 30 分 （Web 会議）

【審議事項】

1. 2021 年度重点事業について
河口てる子会長より説明があり承認された。
2. 2021 年度事業活動計画について
各委員会より説明があり承認された。

3. 2021 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算案について

2021 年度予算について継続審議することとなった。

4. 役員候補者選出規程の改正について

選挙当該年度の新規会員校には、5 月の定例理事会で入会の承認後、7 月の総会で紹介し、選挙は次回の選挙から参加していただくことと決定し、第 3 条第 2 項を改正することが承認された。また、理事の補欠者について、以下の通り審議され、改正が必要な条文について改正することとなった。

「現在理事は 19 名就任しており、仮に 1 名の理事が辞任したとしても、定款に規定されている定数（16 名）を満たしており補欠者は繰り上がらない。4 名以上の理事が任期途中で辞任した場合にのみ補欠者が繰り上がる（ただし 1 名）。このような事態は想定できないので、理事の補欠者を社員総会で選任する必要はないが、理事が任期途中で辞任した場合、各地区と短期大学卒の理事定数を欠くこととなるので、各地区・短期大学卒の理事を新たに社員総会へ推薦するための候補者として、選挙管理委員会は理事の次点者を理事会に報告し、理事会は理事次点者として選出しておく必要はある。」

5. 齋藤ひろみ（仙台青葉学院短期大学）理事辞任に伴う新理事の就任について

社員総会で報告し後任者を推薦し審議することとなった。

6. 事務局の移転について

令和 3 年 5 月 22 日をもって主たる事務所を東京都千代田区神田須田町一丁目 5 番地に移転することが決定した。

7. 2021 年度社員総会について

2021 年度社員総会は Web 開催とすることが決定した。

【報告事項】

1. 2020 年度事業活動報告と予算執行状況について

2. 2020 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会決算案について

3. 若手研究者研究助成の研究期間延長について

4. 会長表彰について

【その他】

1. 看護学生のワクチンの優先接種について

各地域の現状が説明され日本私立看護系大学協会として各都道府県等へ働きかけを検討する。

会長表彰について

卒業生のある会員校より各校 1 名の推薦を受け、優れた業績をおさめた 167 名の卒業生へ、表彰状と記念品（ナースバサミ）を贈呈しました。卒業生のある対象校 175 校のうち 167 校より推薦がありました。（95.4%）

Ⅱ 2020 年度 委員会活動報告

1. 大学教育委員会

1. 趣旨

- ①教育内容（カリキュラム）、方法、評価の調査研究
- ②教員組織、教員の質・能力向上、教育能力・施設設備の調査研究
- ③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施
- ④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 片田 範子（関西医科大学）
- 佐藤 みつ子（了徳寺大学）
- 中嶋 恵美子（福岡大学）
- 波川 京子（川崎医療福祉大学）

3. 活動報告

1. 研修会の開催

- 1) シミュレーション教育に関する研修会 –コロナ禍におけるシミュレーションを用いた遠隔教育–

開催日時：2020年10月11日（日）10：00～16：00

開催方法：ライブ配信と後日配信（Zoom ウェビナーを用いて、講師・会長・担当理事は遠隔より参加）

研修目的：①シミュレーション教育の基本を理解する

②ICTを活用したシミュレーション教育の実際を理解する

③コロナ禍における遠隔実習の試みからの学びと課題を共有する

プログラム：

10：00～10：10 開会挨拶・講師紹介

10：10～12：30 講演1「シミュレーション教育の総論とICTを使った代替実習や演習の実際」

講師：阿部 幸恵 先生（東京医科大学医学部看護学科 教授）

講演2「福岡女学院看護大学のシミュレーション教育とICTを使ったシミュレーションの実際」

講師：藤野 ユリ子 先生（福岡女学院看護大学看護学部看護学科 教授）

質疑応答（20分）

12：30～13：30 休憩

13：30～13：40 午後の部挨拶

13：40～15：35 遠隔実習実践紹介（各校報告毎に15分の質疑応答）

・基礎看護学実習（共立女子大学看護学部看護学科 准教授 山住 康恵 先生）

・成人看護学実習（産業医科大学産業保健学部看護学科 講師 佐藤 亜紀 先生）

・在宅看護論実習（了徳寺大学健康科学部看護学科 准教授 斉藤 敦子 先生）

15：35～15：45 講評

15：45～16：00 閉会挨拶

結果：当日参加者 521 名

アンケート：別添

動画配信期間：2020 年 10 月 21 日～2021 年 1 月 21 日

2) 大学新任教員のための研修会 2020

開催日時：2020 年 12 月 20 日（日）13：00～16：00

開催方法：ライブ配信と後日配信（Zoom ウェビナーを用いて、会長・担当理事の一部は遠隔より参加）

研修目的：新しく私立看護系大学に赴任した教員が、私立大学の理念を反映した教育、組織運営など、私立大学としての特色を理解した上で、より良い活動ができるようになること

プログラム：

13：00～13：10 開会、会長挨拶

13：10～14：00 講演 1「看護系私立大学とは－私学の特性と教育について－」

講師：井部 俊子 先生（長野保健医療大学 教授 副学長・看護学部長）

14：00～14：10 休憩

14：10～15：00 講演 2「看護系大学の教員の役割－求められる能力と教育における倫理－」

講師：小山 真理子 先生（一般社団法人日本看護系大学協議会 常任理事）

15：00～15：10 休憩

15：10～15：40 質疑応答

15：40～15：50 閉会

結果：当日参加者 235 名

アンケート：別添

動画配信期間：2021 年 2 月 5 日～5 月 5 日

2. COVID-19 に伴う看護学実習への影響調査の実施

日本看護系大学協議会(JUNPU)と合同で COVID-19 に伴う看護学実習への影響調査を実施した。(期間は 10 月 8 日から 10 月 23 日) 当協会の会員校(大学) 184 校のうち 160 校から回答を得て回答率は 86.4%であった。12 月 10 日に集計を終え、国公立との相違点などあまり認められなかったが、私学としての実状をまとめ会報に掲載した。

3. 委員会の開催

第 1 回大学教育委員会

開催日：7 月 24 日（金）

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

議題：委員長の決定、今期の活動の確認など

第 2 回大学教育委員会

開催日：8 月 11 日（火）

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

- 議題： 1. 「大学新任教員のための研修会」について
2. 「シミュレーション教育に関する研修会」について
3. その他

第3回大学教育委員会

開催日：8月20日（木）

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

- 議題： 1. 新人教育の年一回開催とシミュレーション教育の前倒しについて
2. 研修の目的と展開方法（時間配分・案内方法・担当について）の検討
3. その他2020年度の活動としての遂行手順の確認

第4回大学教育委員会

開催日：12月15日（火）

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

- 議題： 1. 「大学新任教員のための研修会」の遠隔での運営の確認と役割について
2. COVID-19に伴う看護学実習への影響調査のまとめについて
3. 2020年度活動のまとめ、2021年度事業活動計画について

第5回大学教育委員会

開催日：2021年1月15日（金）

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

- 議題： 1. 2021年度活動計画について
2. COVID-19に伴う看護学実習への影響調査のまとめについて

第6回大学教育委員会

開催日：2021年3月2日（火）

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

- 議題： 1. 2021年度事業活動計画について
2. 会報第45号の原稿について

4. 今後の課題

前年度からの課題：看護学教育を取り巻く社会の変化が激しい中、長期的な事業活動は具体的な計画が立てにくい状況にある。そのため事業活動計画を進めながら、あわせて情報収集し、変化を踏まえて長期計画へと発展させていきたい。本委員会の担当する事業である、大学における教育、教員の質の向上に関するものは多岐にわたり、対象とする教員の職位も新任者から管理者に至り、それぞれの対象者のニーズも多様である。今後本協会の会員校である私学の増加の継続を踏まえ、会員校のニーズを把握して事業を企画する必要がある。看護学教育の動向を見つつ、本委員会の次年度の事業活動計画を策定する。

一般社団法人日本私立看護系大学協会
「シミュレーション教育に関する研修会 ―コロナ禍におけるシミュレーションを用いた遠隔教育―」
アンケート結果
参加者数：521 人
アンケート回答者数：289 人（回答率：55.4%）

開催日：2020.10.11（日）
Zoom を用いたライブ配信

1. シミュレーション教育に関する講演内容について

講演 1「シミュレーション教育の総論と ICT を使った代替実習や演習の実際」

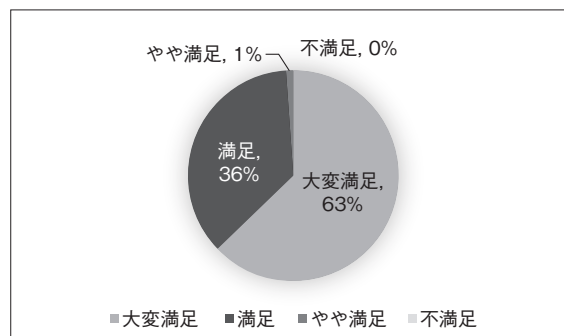
講師：阿部 幸恵 先生

講演 2「福岡女学院看護大学のシミュレーション教育と ICT を使ったシミュレーションの実際」

講師：藤野 ユリ子 先生

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	181 人	63%
満足	105 人	36%
やや満足	3 人	1%
不満足	0 人	0%
合計	289 人	100%



2) ご意見、感想など

①「勉強になった」などの主要な意見

- ・シミュレーション教育において、重要視しなければならないものを分かりやすく学ぶことができた。
- ・学生が経験の振り返りと経験の概念化をすすめることにより、異なる状況での臨床判断を行うための学びになることを再認識した。現在の状況の教育で達成可能なこと、次の領域や臨床に委ねられないこと、積み重ねていけることなどを明確にする必要性についても再認識できた。
- ・実践例やシミュレーション教育のポイントなどをご教示いただき、教育機会の提供の仕方、教員の工夫によって、学生は十分に学ぶこともできるということが実感できた。
- ・コロナ禍にある世の中で大きく変化しながらも全国の大学の取り組みの様子や工夫されている現状を知る事が出来て勉強になった。
- ・理論的に紐解いていただき、主観にとどまらない評価をすることができ、今後の課題も明確になった。
- ・タスク教育との違いについて確認できた。
- ・目標を明確にして適切な教育方法を実践する、大切なことを改めて認識できた。
- ・グループの担当教員によっては、問いの答えを説明しながら実施してしまい、統一できていないこともあったのでもう少し教員間で共通理解しておく必要があると学んだ。

②「意欲につながった」などの主要な意見

- ・シミュレーター教育ではない、設備がなくても可能であるというお言葉に活力をいただいた。
- ・事例作成や教材づくりなど教員の労力がかなり必要である。その中でたくさんの大学教員との連携を図りながら進めていけるのは大変メリットだと思った。
- ・自分がオンライン実習で実施したことや授業に重なる部分が多く、自分が気づけなかった意味づけ、価値に気づき自信となった。画面越しであっても、何を目指しているのか、その熱意や熱量は必ず伝わると感じ、とても勇気づけられた。
- ・学生のディスカッション内容をホワイトボード代わりにどのように示してもらおうかと考えていましたが、阿部先生の Miro を聞いて参考にしたいと思った。

- ・ミッションタウンのお話は、地域包括ケアシステムの中での看護展開を学習するのにとても適していると思った。いつか自分の大学でも取り入れて行きたいと思った。
- ・電子カルテはすぐにでも使用したいと思った。
- ・教育に時間や労力を割くのが、教員として当然のことだと改めて感じた。
- ・領域としての取り組み、大学からの取り組みの詳細の発表を聞くことができてよかった。アメリカではシミュレーション教育が進んでいるので、改めて学んでいきたいと思います。
- ・対面での講義の中でもシミュレーション教育、アクティブラーニングを取り入れていくためのヒントをたくさんもらった。
- ・学生のフィードバックをできるように授業方法を工夫していきたいと思った。
- ・まずは教員チームで同じ方向を向いて授業計画を整えていくことが重要と感じた。そして、目標に忠実に授業計画を整えていきたいと思った。

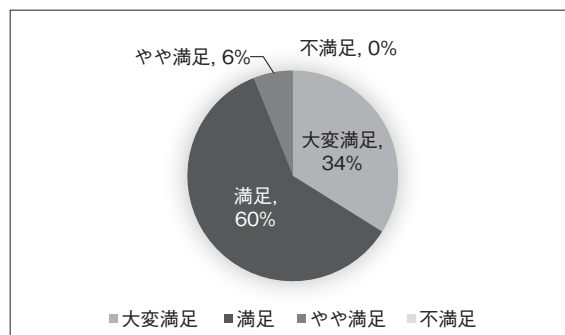
③その他の感想

- ・大学の独自システムを使用されていると思うが、準備の実践レベルでの方法を教えていただきたい。
- ・組織的なバックアップ体制も必要だと思う。
- ・設備と置かれている状況に応じた教員の教育の在り方に関する考えと工夫、教員間の教育目標の共有・共通認識が重要であると改めて感じた。
- ・実践を通しての報告から本質的な提案があったと思う。
- ・実習が学内になることを想定し、電子カルテ風のものをエクセルで作成していたが、この度ご案内いただいたマイクロソフト社の製品を使わせていただきたいと思った。
- ・もう少し、シミュレーション教育そのものについての説明が欲しかった。
- ・学生の基礎学力がある程度必要だと思う。本学では、取り入れは難しいと感じた。
- ・とにかくリアリティのある学修方法としてシミュレーションをということではなく、講義・演習・実習とどの形態で学修すべきか、学修内容を精選し、授業形態を見直す必要性を感じ、準備が必要だったと思った。
- ・ツールに振り回されて根幹を見失いがちになるのですが、常に看護の軸からぶれないご講演を通して、看護を学ぶためのICTであることを肝に銘じて進みたいと思う。
- ・With コロナがしばらく続くと思いますが、今後もこのような状況下で、素晴らしい教育教材を（独自開発だけでなく）どれだけ共有できるようにしていけるかも検討できればと思う。最終的に全国的に優秀な医療スタッフへの学修機会の提供を考え、どう対応できるか、発展できればと思う。

2. 遠隔実習に関する実践報告について

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	99 人	34%
満足	173 人	60%
やや満足	17 人	6%
不満足	0 人	0%
合計	289 人	100%



2) ご意見、感想など

①「勉強になった」などの主要な意見

- ・シミュレーション教育の実際は大変参考になった。想定外の学生の失敗も、貴重な教材だと思った。思考を深めることができるのは、過緊張になりがちな臨地では難しく、学内実習のメリットだったと思った。

- ・どのように展開しておられるのか実状を知ることができた。IT 環境の差が展開できる教育の差につながるように感じた。
- ・異なる領域や大学の状況を知ることができ、どのように協働すべきか、今後の課題として捉え得ることができた。
- ・大学教育の現場の状況が伺えた。目的目標を確認して、そこから遠隔授業を組み立て、様々な動画を作成されていることが分かった。取り組みの際の公平性の確保や、評価方法について留意されている事がよく分かった。
- ・実際に工夫されている点が具体的に聞けて参考になった。特に、臨地でしか学べないこととそうでないことのすみわけが必要だと再認識した。
- ・遠隔実習がやむない状況にある場合、目標の見直し、準備を丁寧にすることの重要性が良くわかった。コロナ禍の経験を機に、今後の実習が短縮化する傾向を感じていたので、本質に戻ることの重要性を再認識した。
- ・成人看護学実習の佐藤先生の講演は、実践的な内容だった。特に急性期実習は、患者の身体的、心理的变化について展開の早い中での臨床的判断を必要とされますが、オンラインであっても臨床場面の想定からケア実践までリアリティに近い教材作成を学んだ。

②「意欲につながった」などの主要な意見

- ・特殊な状況が領域の壁を低くし、協働を推し進めていくことの可能性を実感した。
- ・遠隔授業には人、モノ、金すべてが整った施設ばかりではなく、学生側にもパソコンや通信費などの負担もかけ心苦しい点もある。今回、他の施設の取り組みを共有でき、当たり前ではありますが正解はなく、それぞれができる範囲で最大限の想像・創造をすることが大切だと覚悟することができた。
- ・産業医科大学の佐藤先生の、学生のアセスメント・指示に基づいた教員のデモにとっても興味を持った。学生が考えたことを教員が行って、映像で配信しさらに学生に考えさせる、実際に臨地に行っていなくても臨場感を持たせて実習できることに発想の転換と工夫を感じ参考にしたと思った。
- ・臨地実習がやむを得ず短期間となり、学習目標・教育方法の見直しを行い、学習目標を到達するための教員の学生に対する思いと熱意が、学生に相互に作用して目標を到達できることを感じた。
- ・教員間で相談したり、意思統一を図るプロセスは楽しいだろうと感じた。
- ・自分たちの実習のあり方も、今回のご発表を参考にしながら、見直していきたいと思った。
- ・教員が作成した動画を活用していくことは、目的・目標に沿ってくると考えられるので、ぜひ作成していきたい。
- ・シミュレーションを用いた実習として、失敗を教材化するということはとても理解できたのですが、それは学内演習でもシミュレーションをしているので、その学びと何が違うのか？という点について、私自身も考えていきたいと思った。
- ・今後は、臨床体験の少ない学生らが看護師となるため、基礎教育と臨床の協働は不可欠だと感じた。学生たちが卒業後も臨床経験の少なさを引目に感じず不安を最小限に臨床で活躍できるような学習支援を目指していきたいと思った。

③その他の感想

- ・目標と到達目標の設定と遠隔実習を工夫することで、従来の実習と遜色ない実習になると実感しながら実習指導を行っている。
- ・それぞれの大学でどのような工夫をされたのか、全国調査があってもよいと感じた。
- ・ほかの領域の実習報告や、大学の設備に応じた方法なども知りたいと思った。
- ・急性期実習に関することが多く、慢性期実習に関するところも聞きたかった。様々な領域で特徴がありますので、今後、お聞きする機会があれば助かる。
- ・実践の報告でしたが、実践（事実）と教員の情熱がミックスされた報告があり、私の理解力では、主題を理解することができなかった。
- ・臨地にでられず、学内で実習を行う方法をなんとか実施しているという状態なため、実施してい

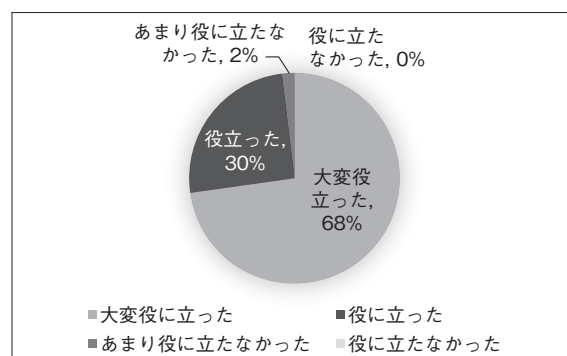
る教員も、目標達成可能なのか、学びが得られているのか不安を抱えながら行っており、他大学の実践例を紹介いただいたことで、安心感が得られた。一方で、目標の再構築という点では、受け入れ施設によって、臨地に全くいけない学生と、1週間行ける学生と違いがあるものの、同じ領域実習では目標を変更するわけにもいかず、今後の評価でどのようにするのか、考えなければならないと思った。

- ・講評にもあったとおり、臨地に行けない現状は仕方ないとしても、目標と教材をどう合わせていくかが大変大事だと思った。そのための過程など、この辺りをお聞きできたのはありがたかった。産業医科大学の佐藤先生が話されていたように、学生への配慮の中に「ずっとオンラインに繋がっぱなしにならないような」という作業上の配慮も、遠隔で進めるには重要な要素だと思ったし、そのためにはいつも以上に丁寧なスケジュールリングが、必要になってきたと感じた。
- ・日本の看護教育界は、現実に対して対応しておりすごいと思った。
- ・藤野先生のシミュレーターセンターの実際と活用方法が理解でき、特にミッションタウンは興味深く、これからの看護教育で必要とされている地域・暮らしの理解につながるものになると考えた。具体的な教育内容を学びたいと思った。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	196 人	68%
役に立った	88 人	30%
あまり役に立たなかった	5 人	2%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	289 人	100%



2) ご意見、感想など

①「勉強になった」などの主要な意見

- ・リアルタイムなテーマで具体的に役に立つ内容だった。
- ・他大学での対応方法も聞けて参考になった。
- ・今の教員の課題や現状を反映した内容であり、それぞれが戸惑い工夫しながら実施していることを知りえることができて、大変参考になった。
- ・他大学のコロナ禍での遠隔実習の実践について知ることができ、活用できそうなツールなども知ることができた。
- ・臨床現場のご努力や大学に対するご協力もあり、地域ぐるみの取り組みが大切であると感じた。
- ・ICTの活用に関しても、様々なツールや方法があることを知り、大変参考になった。もう少し、詳しい方法も知りたいと思った。
- ・目まぐるしく変化した状況でタイムリーな対応をされている現状の報告をして頂き、確認し合う時期としてよいタイミングだったと思う。後期や次年度の取り組みに活かすことができる。
- ・看護学部にて特化したFDを、所属大学では行っておりません。このため、貴重な体験の機会を得ることができた。
- ・3年制の短期大学であるため、最終学年の領域実習がほとんど遠隔または学内での実習になっており、これまで手探りで領域実習を企画し経験を重ねた中で、ご講演や実践報告を拝聴することができたため、今まさに企画中の統合実習のプログラムに反映させることができる良い機会となった。
- ・迷いながらオンライン授業を行っておりますので、今回の研修は今後のよりよいオンライン授業にとっても参考になる。臨地実習を行って当然の価値観からの転換を余儀なくされ、教育の質が落

ちると感じましたがオンラインのメリットも感じる事ができ、臨地実習同様のレベルを求めるというより違う達成度があると思った。

- ・阿部先生のスライドや話が非常にわかりやすく勉強になった。

②「意欲につながった」などの主要な意見

- ・技術科目を担当しており、動画について悩んでいましたが、ヒントをもらったのでチャレンジしたいと思う。
- ・いまの時期に必要な、重要なテーマを取り上げてくださり、教育とは何か、本質も考えさせられた。
- ・遠隔授業、学内実習と手探りの中で、自分なりに工夫をしていますが、不安も大きくなっていたこのタイミングで、内容も大変有意義であったことはもちろん、どこの大学も、どの先生方も同じ状況下で頑張っておられることを身をもって知ることができ、自分自身のモチベーションの維持につながった。
- ・目標修正も行わずに授業や実習を行ってしまっている状況を恥ずかしいと思った。案を挙げても、限界がありますが、できることを考えてみたいと思った。
- ・コロナのため、遠隔実習や学内での実習を取り入れ、臨地実習日数が少なくなってしまったが、臨地実習で学ぶことは何かをあらためて明確にし、実習目標を設定する必要があると思った。
- ・今期からは手術見学は中止となり、ますます手術や術後患者をイメージしにくくなっていくので、シミュレーションを取り入れて学生が主体的に学習できるようにして行きたいと思う。何を学習させたいか、どう学ばせたいかなどを教員間で共有し、教育の質を担保して、教育内容を工夫していきたいと思った。
- ・このコロナ禍がなければ、ここまで関心はもたなかった内容かもしれない。今回、様々な形のシミュレーション教育の実際を見せていただき、やり方によってはこれから工夫ができそうな気がした。また、学生への時間や学習内容的負担が徐々に増えてきている中、最後に片田先生からあった「臨地実習にこれだけ行く意味、重み」はだいたい考える必要があると個人的に思った。
- ・演習と実習の区別や実習目標の見直しや明確化、シミュレーションの実践状況下で対応など、自己の行った学内実習のシミュレーションを見直し修正していきたい。学生への指導は、前向きな発言で学生の振り返りを後押しできるような関わりとなるよう努力していきたい。
- ・これから実習を検討していくため、時期的にも前期を終えたことで、臨地実習が出来ないことのデメリットだけでなく、強みについても伺えたことが良かった。

③その他の感想

- ・研修会に限らず、情報の提供をお願いしたい。
- ・コロナ禍は大学の在り方を考えさせられる機会になった。今後、オンライン授業は一部定着していくかもしれないと感じている。
- ・基礎看護教育で、シミュレーション教育が効果的に進められている事例に基づいた研修であったと思うが、シミュレーション演習に向けた環境があまり整っていなかったり、体制もまだ不十分な場合で、どのように導入するか、企画・運営していくかヒントになる内容も知りたかった。シミュレーション教育は、目的・目標、運営の細かな設定が究極的には最も重要になると思う。一方で、環境・体制が整っていると、教育内容のバリエーションやキャパシティーが広がるし、そのため「実行可能性」も広がる、という点を痛感した。
- ・実践と合わせて、他大学でも無料、有料問わずで、使用可能なデバイスやツール（今回の阿部先生や藤野先生の電子カルテのご提案のような）も合わせて紹介していただけると助かる。講評での阿部先生のお話のような内容が盛り込まれると良いと思った。
- ・今後、完全遠隔での実習が少ないかと思いますが、講義は遠隔が続いているので、学生のモチベーションアップの遠隔授業の方法を学びたい。
- ・今回紹介して下さった基礎、成人（急性期）、在宅以外の領域におけるコロナ禍での実習についても紹介していただけるとありがたい。
- ・遠隔教育を試行錯誤しながら行っているなかで、各大学の実践例をうかがうことができた今回の研修会はとても素晴らしい機会となった。

- ・今年の冬がどのような状況になるかわからないが、全ての先生方が過労で倒れないようにと願う。
- ・各大学でもっと工夫されていることがあると思うので定期的に共有する場があると良いと思った。

④運営について

- ・司会の中嶋先生が要所要所を端的にまとめて伝えてくださって、より理解を深める事ができた。
- ・阿部先生や藤野先生が実践されている、シミュレーションの授業実践の状況の動画をもっと見たかった。
- ・とても良い企画でしたが、拘束時間が長すぎた。休憩時間も短かったので、後半集中できなくて残念だった。
- ・事前に読むし、分からない用語は事前に調べ、質問も考えたいので事前資料を配布してほしい。
- ・情報を貰ってから開催日まで比較的期間が短く、今後の実習準備、教材準備からすると時期はよかった。一方で、先に予定が入ってしまっていたので調整した。領域内、学内で共有できるとありがたい。
- ・今必要としている内容の研修であったと思う。またライブ配信であったため移動の必要がなく参加しやすかった。
- ・オンライン研修にいただいたおかげで、沢山の同僚が視聴できた。今後、共通した認識で授業改善に取り組めるのでとてもありがたい。対面研修も良さはありますが、ワークをするのでなければ今回のようなオンライン研修で十分学べることを実感した。研修で各講師の先生方が提示してくださった PowerPoint の資料で、可能なところは配信いただくとふり返りができてありがたい。
- ・タイムリーな企画でとても興味深かった。また、参加者が質問しやすいようにチャット機能もホストのみに届き、司会者の先生が分かりやすくかみ砕いて間をつないでくださるなど、とても配慮されていて、オンライン環境での今後の企画運営にも参考になった。
- ・期待していたほどの新しさはないように思う。

4. 今後、本協会「大学教育委員会事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

①希望するテーマについて

- ・コロナ禍の工夫について
- ・精神看護に関するシミュレーションの事例
- ・シミュレーション実習について（在宅領域）
- ・同じテーマで、単科の大学での取り組みについて
- ・シミュレーション教育による学習の推進と評価のところ、達成度の課題をどう克服するかについて
- ・実習評価や到達目標の工夫について
- ・授業評価について
- ・初めての教育者にむけての研修会や勉強会（大学とはなにかという組織のことや学生を指導する上での大事なことについて、研究について等）
- ・若手教員の育て方、支援について
- ・カリキュラム改正の関連の内容について
- ・指定規則とコアカリキュラムの融合について
- ・様々な ICT 教育の取り組みについて
- ・コロナ禍での国際交流に関する科目の実践について
- ・教育方法に関する工夫の共有
- ・地域連携を主体にした教育について
- ・看護研究の方法、統計的データの解析について
- ・アクティブラーニングについて
- ・学生間の学力の差を埋める講義展開について
- ・職業観や教育観の異なる教員の共同について
- ・実習施設の確保について

- ・発達障害や、特徴のある・気になる学生、に対する教育の具体的な場面と対応例について
- ・若手への研究能力向上をめざすもの（統計やクリティークなど）
- ・ミックスメソッドを用いた研究法について
- ・遠隔授業（同時双方向型、オンデマンド型）や演習、などの工夫（授業案や評価、提出物へのコメントなど）の情報提供。特に、こんなことで困って、このように解決した、というようにシステムがない中での工夫など
- ・Academic management について

②開催方法について（同様意見多数）

- ・開催方法はリモート（かつ、リモートでのグループセッションも方法かと思う）
- ・オンライン開催でかつグループワークや発表者と直接やりとりができるような形
- ・情報交換会を開催して欲しい。
- ・オンラインと配信が良い。
- ・集合研修が可能になった後も、会場に出向くことができない場合に参加できるよう Web を重ね合わせた形態がいい。

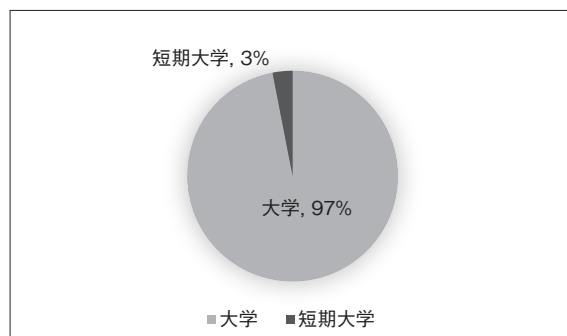
③開催時期について

- ・週末
- ・日曜日がいい。
- ・日曜日でない方が、参加しやすい。
- ・平日の夜がいい。
- ・年 2 回
- ・開催時期は 9 月や 4 月など、学業の休業期間もしくは、土曜日日曜日など講義の無い日。
- ・来年の春

5. 参加者について

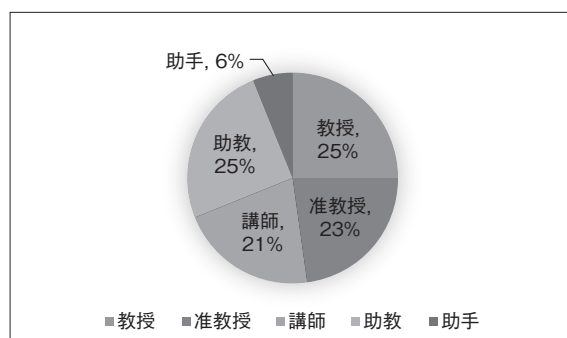
①所属

	人数	割合
大学	281 人	97%
短期大学	8 人	3%
合計	289 人	100%



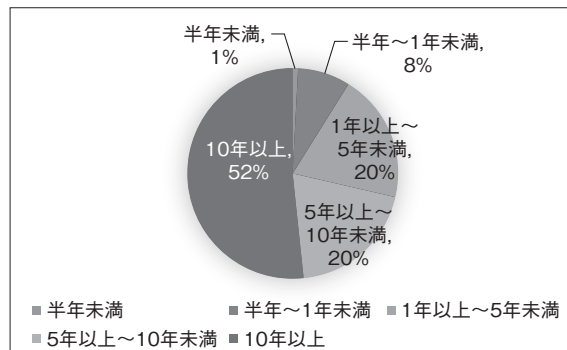
②職位

	人数	割合
教授	72 人	25%
准教授	66 人	23%
講師	60 人	21%
助教	73 人	25%
助手	18 人	6%
合計	289 人	100%



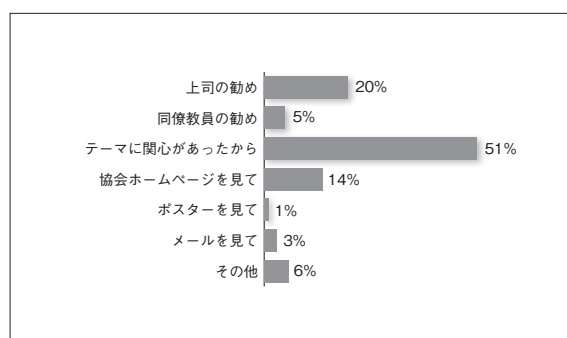
③在職期間

	人数	割合
半年未満	2 人	1%
半年～1 年未満	22 人	8%
1 年以上～5 年未満	59 人	20%
5 年以上～10 年未満	57 人	20%
10 年以上	149 人	52%
合計	289 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	75 人	20%
同僚教員の勧め	18 人	5%
テーマに関心があったから	190 人	51%
協会ホームページを見て	53 人	14%
ポスターを見て	2 人	1%
メールを見て	11 人	3%
その他	21 人	6%
合計	370 人	100%



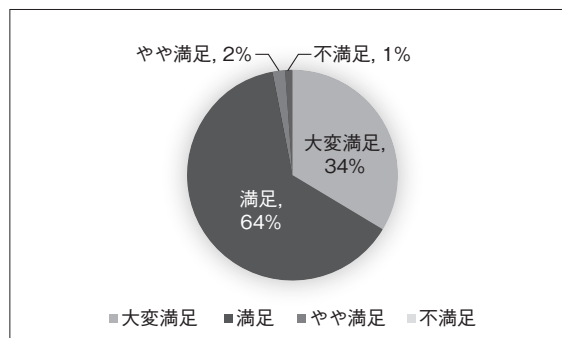
一般社団法人日本私立看護系大学協会
「大学新任教員のための研修会 2020」アンケート結果
参加者数：235 人
アンケート回答者数：175 人（回答率：74.5%）

開催日：2020.12.20（日）
Zoom を用いたライブ配信

1. 講演「看護系私立大学とは－私学の特性と教育について－」の内容について
講師：井部 俊子 先生（長野保健医療大学 教授・副学長・看護学部長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	58 人	34%
満足	109 人	64%
やや満足	3 人	2%
不満足	1 人	1%
合計	171 人	100%



2) ご意見、感想など

①「勉強になった」などの主要な意見

- ・看護系の大学教育で、国家試験合格が中心となる教育姿勢ではなく、大学教育とは何を教育するのか、リベラルな視点が重要である事を改めて認識した。
- ・私立系の大学の役割と其中で働く看護教員の役割を整理することができた。
- ・私立大学で看護を教えるということについて、再度検討する機会となった。
- ・日本における看護大学の変遷と現状を理解できた。
- ・様々な法律から、私立大学教員の立ち位置や今後の課題について理解することができた。

②「今後の意欲につながった」などの意見

- ・若手教員への期待とエールを感じた。自身が教員として求められている役割や今後取り組むべき課題を考えるよい機会になった。
- ・学生が自分で学ぶこと、少なくとも学ぶことが楽しいと思えるようにこれからも励みたいと思った。
- ・看護系私立大学が期待される、果たすべき役割を今後担っていけるよう努力したいと思った。
- ・私の勤務する大学は国家試験合格率が低くて情けなく思っていたが、井部先生のお話を聞いて、建学の精神に沿った特色ある大学として頑張っている地方の大学なんだと気づいた。学生の成長を信じて教育に関わっていく勇気をもらった。
- ・自分の所属する法人の寄附行為を読み直すとともに、建学の精神を頭において教育研究活動を行っていきたいと思った。
- ・近年、看護系の大学生には看護師の資格は欲しいが、看護師にならないという学生が増えてきている。否定的な感情を持つ教員に対し、なぜなのだろうと疑問を持ちつつ、周囲に合わせて看護師になることを進めて行く事が多かったが、私自身はそのような学生に肯定的な姿勢を持って接してきたことを間違いではなかったと感ずることができた。
- ・「大学という理念」についてリベラルな知の提供を短期大学での3年間の教育でどのようにしたら実現できるのかを考えさせられた。
- ・4年制大学として学士という学位と、看護職としてのライセンスを取得する看護学特有の教育プログラムをいかに確立するか、リベラルアーツの修得と学修者本位のパラダイムシフトの観点から、更なる新たな教育改革に取り組まなければならないと実感した。

③その他の感想

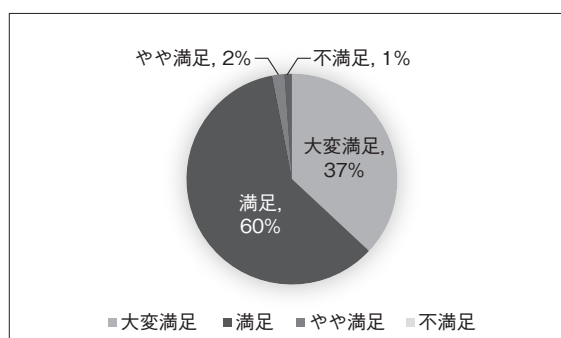
- ・教育は「サービス」の形であるという点はこれからの看護教育において大変興味深い。
- ・教学マネジメントという大きな枠組みからの講演が、狭い視点に囚われないようにするというメッセージと感じた。
- ・改めて看護系大学における教員の役割を再認識すると共に、教育を「サービス」と捉える視点が新鮮だった。
- ・国公立大学と私立大学の違いについてとても分かりやすかった。
- ・法律などの関係性についてもう少し聞きたかった。

2. 講演「看護系大学の教員の役割－求められる能力と教育における倫理－」の内容について

講師：小山 眞理子 先生（一般社団法人 日本看護系大学協議会 常任理事）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	64 人	37%
満足	104 人	60%
やや満足	4 人	2%
不満足	1 人	1%
合計	173 人	100%



2) ご意見、感想など

①「勉強になった」などの主要な意見

- ・看護系大学の教員の役割と関連の高い組織についてよく理解できた。
- ・学習パラダイムの使命と目的、FDのガイドラインを見直し、自身を振り返るよい機会になった。
- ・教育という枠組みの中で、看護教育を考えるという、基本的なことを改めて認識することができた。
- ・教員としてどのように学生と接したらよいかの参考になった。
- ・研究時間確保のためのマネジメントの重要性を再確認した。
- ・新任教員に求められる能力を体系的に知ることができ、新任の助教として、何をすべきなのかがわかった。
- ・考え方や教育方法の大きな変革の時期にあり取り組み方によって教育に大きな差が出る事を確認した。

②「今後の意欲につながった」などの意見

- ・コロナ禍で取り組んでいることを記録し、共有していくことも今後の看護学教育にとって非常に大切であると思うので、次につながるようにしたい。
- ・学生が、何ができるようになるかを大切に関わっていきたいと思った。大学教員としてのレジリエンスの話を聞き、今後は教員個人として、大学組織としてレジリエンスを高めていけるよう行動していきたい。
- ・求められている能力について、学ぶことができたので、今後の教育活動に活かしたい。
- ・実習はどのように行うかを伝えていることが多く、何ができるようになるかを意識して指導を行っていききたいと思った。
- ・FDについて、研究活動への参加の内容で、一人で行おうとするのではなく、学会の専門分野の研究会を活用するという内容が印象に残ったので実際に検索してみたい。
- ・大学教員として、単なる知識や臨床知を伝授するのではなく、学生の課題探求能力に目を向け、学生自身が学修姿勢を切り替えていけるように教育していきたいと思った。
- ・どのように若手を育てていくのか、現況を振り返るよい機会となると共に、キャリア開発支援の

ための新たな組織づくりのヒントを貰った。

- ・教育における倫理観については、最近学生に対してとても申し訳ないことをしたところなので、話題に上がったものではありませんが、胸に突き刺さるものがあった。真摯に反省し、繰り返さないことを誓った。
- ・同じ職位間での関係性構築の視点などにおいて、助教会や講師会など、非常に参考になる点もあり、今後本学でも検討して取り入れていく事が出来ればと思った。
- ・看護師から看護教員となり正直分からないことだらけだったが、先生の講義を聞き、自身が目の前の業務と具体的に何をしていけばよいか行動レベルで教えて頂けたので今の気持ちを大切に頑張っていきたい。
- ・領域間の関係性の構築は、難しいと感じるが、無理せず自分の感性で関係性が良好であるようにしていきたいと思った。

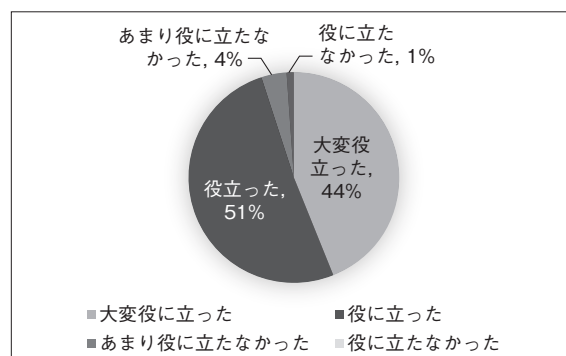
③その他の感想

- ・参考資料等、自己の目標と評価にすぐに役立つ内容であった。
- ・管理者の先生方にも聞いてほしい内容だった。
- ・どのようなときに学生を大切にしない教育が行われやすいのか（若手に陥りがちや教授クラスの対応）などといった視点でも教えていただけると理解しやすかったと思う。
- ・教員の役割を、どのように培っていくか、ということをもっとお話いただく時間が欲しかった。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	76 人	44%
役に立った	89 人	51%
あまり役に立たなかった	7 人	4%
役に立たなかった	1 人	1%
合計	173 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・専門学校から大学に入職し、十分なオリエンテーションもないまま授業・実習をしていて困っていたが、基本的な考え方や知識を教えていただき助かった。学生の声聴いているように思われているけれど、実際は一方向に見える授業を展開する先輩方に疑問を持っていた。井部先生、小山先生のお話で納得できる場所が多く、理想論に終わらない現実的なご意見は今後もお聞きしたいと思った。
- ・新任教員のための研修会ということだったが、新任教員にどのような支援が必要か、のようなお話しが多かったかなとも思いましたので、新任教員にとって具体的なアドバイスがあればもっと勉強になったかと思う。
- ・大学で学ぶ知とは何かという内容が印象に残った。私は専門学校に所属後現在に至っているのですが、その違いについて考えさせられた。
- ・井部先生が言われた大学で学ぶことは「手段」ではなくリベラルアーツであることを実践しようと思っても、残念ながらそれは通じません。さらに、小山先生の言われた、助教など若い世代が領域を超えて、仲間づくりをというのは本当に大事ですが、他分野の教員と自分の領域の教育内容の共有を禁止する教授がいますので、若手は全然話をしなくなってしまうという悲しい現状がある。
- ・大学教員の役割として教育・研究とあるが、職位の上がる仕組みとして研究業績が重視されてい

るため、教育の質が保証されていると言い難い場合もあると思われる。その評価システムが改善されれば学生への教育の質保証につながると感じた。

- ・大学教員というのがよくわからず、半年が過ぎ、このコロナ禍で、例年のように進まない、あるいは試行錯誤をしながらの授業進行で振り回されていると感じていた。大学教員とは何をする人ぞ?、大学での学びを学生にできているのか?と置いていたところ、本セミナーがあることを知り、参加を決めた。HOW TO みたいなことを想像しましたが、やはり、教員セミナーだった。考えさせられた。
- ・職位や経験等で本当に教員の方によって考え方は様々であることを日々感じている。その中でも目指すべき方向は、学校の理念であること、また、大学として学生自らが考え学ぶことができる環境や雰囲気を整えることを明確に示されたことで、日々何となくこれでよいのかと迷っていたが、自分ができることへの確信が持てた。
- ・先生方がおっしゃっていた通り、国家試験を合格させるための大学教育になっていると日々感じていた。知識をつけるだけではなく、自分で発問し考える力を養うことが、大学で看護学を学ぶ楽しさだと感じている。それが実現できるような大学で働きたいと思った。
- ・質疑応答のところで若手教員に向けての一言でいただいた臨床実習で「学生の持っている能力を信じる」とことという視点に感銘を受けた。
- ・今回の様に、組織的にも大きな枠組みから考えられるような、サービスの意味や姿勢を具体的に経営の観点からマネジメント出来るような啓蒙をしていただけたらと思った。経営理念や倫理的な事になるでしょうか。教育職員の教育や尊厳に関わる事に触れていただきたかったと思った。
- ・看護学教育における倫理について、新人のみではなく教員全体で再認識する必要がある。新人のみだと解決できないことが多くあるので、日本私立看護系大学協会ですっかりとフォローしてほしい。

4. 今後、本協会「大学教育委員会事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

①希望するテーマについて

- ・看護教育者の育成について
- ・看護教員のキャリアラダーについて
- ・指定規則、カリキュラム改正等について
- ・教育評価の方法について
- ・これからの大学教員の働き方や勤務形態、キャリアの積み上げ方について
- ・コロナ禍での各大学の病院実習や学内実習の取り組みについて
- ・大学で学ぶ知について
- ・効果的なオンライン授業について
- ・リベラルな知について（講師は井部先生）
- ・オンライン授業と著作権について
- ・ディスカッションを中心とした研修会
- ・看護学の領域（基礎看護学、小児看護学など）ごとの研修会
- ・本企画を継続してほしい。
- ・実習での指導方法について（事例紹介を交えて）
- ・現在の成人学習者の特徴、それに応じた教育について
- ・最近の学生の傾向と関わり方に配慮すべきことについて
- ・質疑応答にありましたが、若手への実習指導サポートのように、新任教員が教育力を上げるための具体的、行動レベルで学べる研修を受けたい。

②開催方法について（同様意見多数）

- ・今回のような Zoom での開催は、移動時間や移動費用が不要であり、時間調整もやりやすいので、今後も継続してほしい。
- ・実習等があると日程により現地までいく予定を立てることが難しいことや、開催地によっては金

銭的な負担もあるため（個人研究費には限りがあるため自己負担となると厳しいことがある）、Zoom等のWebでも参加できる選択肢があると参加しやすいのでありがたい。

- ・コロナが落ち着いた後もこのような開催形式にいただけると大変ありがたい。
- ・集中して講演を聞けるので、Zoomでの研修会は大変助かる。
- ・午前からの開催にし、それぞれの先生方のお話しをもう少し長い時間でお聴きしたかった。

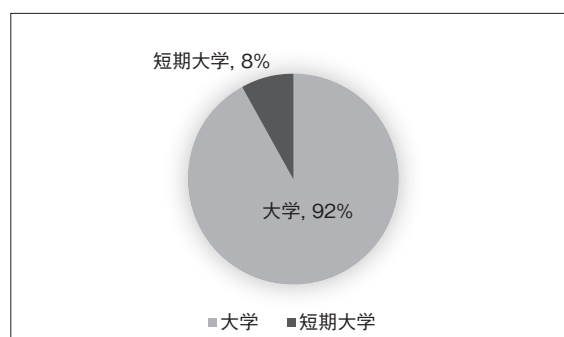
③開催時期について

- ・今回はコロナ禍という状況であったのでこの時期になったと伺いましたが、コロナ禍であるためにテレワークなど孤独に考えてしまうことが多かった。このオンラインで受講できるというのはとてもありがたいですし、ぜひ入職して春の段階で一度聞くことができると、孤独に悩む時間が減るのかなと思った。
- ・前期と後期の早いうちがありがたい。
- ・週末を希望する。

5. 参加者について

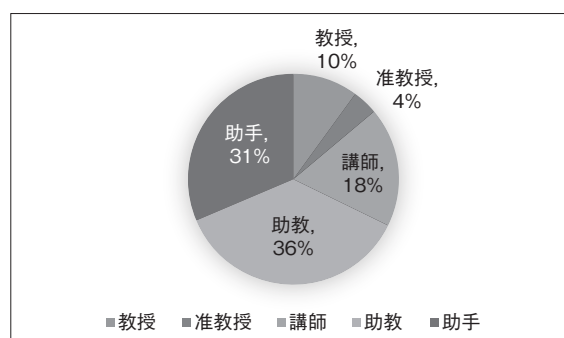
①所属

	人数	割合
大学	160 人	92%
短期大学	14 人	8%
合計	174 人	100%



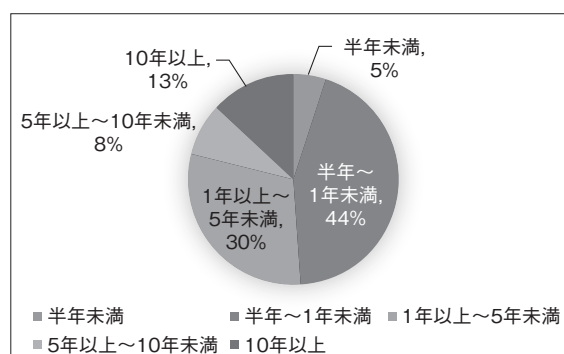
②職位

	人数	割合
教授	18 人	10%
准教授	7 人	4%
講師	32 人	18%
助教	63 人	36%
助手	54 人	31%
合計	174 人	100%



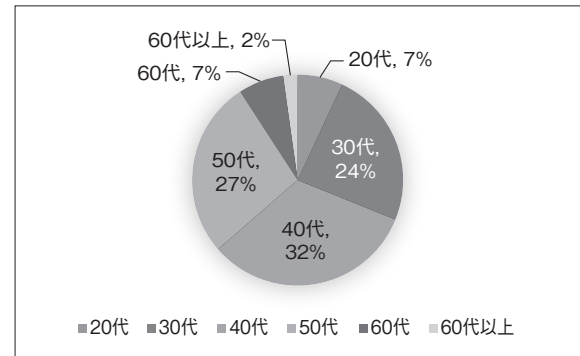
③在職期間

	人数	割合
半年未満	9 人	5%
半年～1年未満	76 人	44%
1年以上～5年未満	52 人	30%
5年以上～10年未満	14 人	8%
10年以上	22 人	13%
合計	173 人	100%



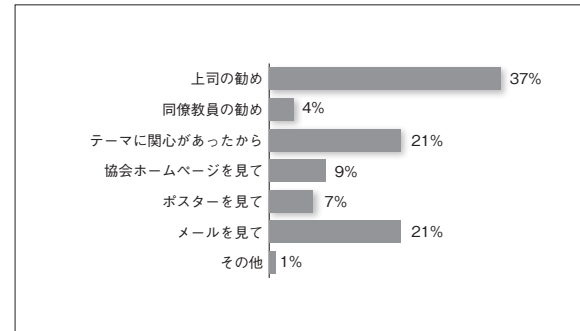
④年代

	人数	割合
20 代	13 人	7%
30 代	42 人	24%
40 代	55 人	32%
50 代	47 人	27%
60 代	13 人	7%
60 代以上	4 人	2%
合計	174 人	100%



⑤参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	81 人	37%
同僚教員の勧め	9 人	4%
テーマに関心があったから	45 人	21%
協会ホームページを見て	19 人	9%
ポスターを見て	15 人	7%
メールを見て	47 人	21%
その他	3 人	1%
合計	219 人	100%



2020 年度 COVID-19 に伴う看護学実習への影響調査結果

今回の調査は全国 945 校に対し、530 校（56.1%）から回答が得られた。その結果、85.8%の大学で変更となり、主な変更内容は、実習日数、実習時間の短縮が 60.1%、実習時期の変更が 50.1%、施設の変更は 39.1%であった。実習形態では、遠隔授業形式と学内実習を併用したが 33.7%、学内実習が 30.9%、遠隔授業形式は 20.7%であった。

I. 実習形態の変更について

- 1) 実習形態の変更理由は、実習施設側の方針が 5 割弱で、大学・学科の方針は 3 割弱であった。
- 2) 実習変更のメリットとしては、学修進度が把握しやすい、教材を提示しやすい、学修時間が増えた等であった。
- 3) 実習目標の到達状況については、通常に比べて知識と態度は同程度であるが、技術は代替方法の方が下回った。
- 4) 実習方法は、教員が事例を作成しているところが多く、実習指導者をオンラインで招聘したケースは 16.1%、実習の代替としてシミュレーターの活用は 4 割弱、視覚教材の活用は 75%であった。

II. 実習変更に伴う影響について

- 1) 学生側としては、観察やコミュニケーション経験の不十分さ、臨地実習という学習の機会の不平等さや体験の限界が、看護観の形成や就職先の決定に影響を及ぼすとの意見が多くみられた。また、学生のインターネット環境の問題やパソコンの長時間使用による眼精疲労が心配との意見があった。
- 2) 教員側として、1 病棟あたりの学生受け入れが少なくなり、実習病棟が増えたことで、教員の負担感や教員数不足が生じた。また学内実習に切り替わったことにより教材の準備、打ち合わせ会議の増加、学生対応等で業務量が増えた。また、熟年教員との臨地実習に対する考え方が異なり、臨地実習の意義や重要性について考え直す必要がでてきた。
- 3) 実習変更に伴う教育環境の整備が必要である。同時期同時間に複数看護学領域が学内実習となったため、教室調整の困難さ、学生数に応じた教材・教具の不足が生じた。

III. 感染予防対策

1) 学生に対する感染予防対策（主な内容）

感染予防のオリエンテーション、マスク・手洗いの推奨、教室内での感染対策、集団での飲食禁止、健康チェック、体調不良および濃厚接触者が発生した場合の報告、学内食事場所での感染対策等で概ね 98%以上であった。

2) 実習施設との調整・確認事項

体調管理、学生が感染もしくは濃厚接触者になった場合の対応、実習時間以外の過ごし方等が 7 割弱で調整されていた。感染防護用具の購入では、マスク、フェイスシールド、手指消毒剤等は大学側で購入し、使い捨てエプロンや手袋は施設側で提供されていた。

IV. 今後に向けての要望

学習の質の担保、教員負担の軽減の観点から、大学を超えて教員相互で協力できる体制を整えてほしい。

2. 研究活動委員会

1. 趣旨

- ①教員による研究費獲得の向上、学術研究の大学内環境や条件を向上するための方策の調査研究
- ②研究助成と研究ネットワークづくり
- ③研究に関するセミナー、研修会等の実施
- ④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会および総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○秋元 典子（甲南女子大学）
坂本 真理子（愛知医科大学）
島袋 香子（北里大学）
武田 祐子（慶應義塾大学）

（研究助成選考委員）

小長谷 百絵（上智大学）、小山 友里江（北里大学）、佐々木 綾子（大阪医科大学）、
高田 由美（日本赤十字秋田看護大学）、中岡 亜希子（神戸女子大学）、
原 礼子（清泉女学院大学）、三澤 寿美（東北福祉大学）、吉田 久美子（高崎健康福祉大学）

3. 活動報告

1) 研究助成事業

2020 年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を 4 月 1 日～5 月 31 日に行い、7 月 11 日に選考委員会で選考した結果を理事会に提出し、助成者を決定した。8 月から助成金の交付を行った。

選考結果(1) 看護学研究奨励賞 応募：11 件 採択：7 件
(2) 若手研究者研究助成 応募：22 件 採択：10 件
(3) 国際学会発表助成 応募：5 件 採択：5 件

2020 年度研究助成事業選考結果

①看護学研究奨励賞

11 件の応募があり、以下 7 件を採択した。

氏名	所属	論文名	掲載誌
植木 慎悟	武庫川女子大学	Parental factors predicting unnecessary ambulance use for their child with acute illness: A cross-sectional study	Journal of Advanced Nursing
神田 清子	高崎健康福祉大学	Development and validation of the comprehensive assessment scale for chemotherapy-induced peripheral neuropathy in survivors of cancer	BMC Cancer open access p.1-11 2019;19:10.1186/s12885-019-6113-3.

鈴木 大地	城西国際大学	Secondhand Smoke Exposure During Pregnancy and Mother's Subsequent Breastfeeding Outcomes: A Systematic Review and Meta-Analysis	Scientific Reports
濱田 昌実	中京学院大学	Decreased bone mineral density and osteoporotic fractures are associated with the development of echogenic plaques in the carotid arteries over a 10-year follow-up period: The Japanese Population-based Osteoporosis (JPOS) Cohort Study	Maturitas
道林千賀子	岐阜医療科学大学	Competency model for public health nurses working on tobacco control in local governments in Japan: A qualitative study	Japan Journal of Nursing Science
森谷 栄子	北里大学	The relationship between perceived difficulty and reflection in the practice of discharge planning nurses in acute care hospitals: A nationwide observational study	Journal of Clinical Nursing
渡邊 路子	新潟青陵大学	Association between Neighborhood Environment and Quality of Sleep in Older Adult Residents Living in Japan: The JAGES 2010 Cross-Sectional Study	International Journal of Environmental Research and Public Health (IJERPH)

②若手研究者研究助成

22 件の応募があり、以下 10 件を採択した。

氏名	所属	研究テーマ
伊藤 文子	帝京大学	地域で生活している長期入院経験を有する統合失調症の人々における自尊心 (self-esteem) の維持に関する研究 - 統合失調症の人々との対話を通して -
大植 崇	兵庫大学	新型コロナウイルス感染症患者に対応する看護師のメンタルヘルスの実態調査
上條 翔矢	北里大学	熟練看護師の患者観察場面における注視パターンの特徴
小口 翔平	清泉女学院大学	看護師の多重課題遂行能力を測定するための尺度開発 - より効果的かつ科学的な教育プログラムの構築に向けて
高尾 憲司	京都先端科学大学	患者視点重視の医療サービス改善に指向した患者意見分類法の開発
田幡 純子	東京女子医科大学	生後 3 か月までの育児支援をする祖母のための育児支援疲労感尺度の開発
中口 尚始	大手前大学	特別支援学校に通う児童生徒のきょうだいにおける生活習慣と健康関連 QOL に関する研究
原田 奈美	東邦大学	妊婦の出生前スクリーニング受検に関する意思決定の経験
増田 悠佑	北海道医療大学	看護小規模多機能型居宅介護で働く介護職の終末期介護への前向きさに関連する要因
松本 裕	東海大学	保湿ケアやアロマセラピーで用いられるホホバオイルの抗炎症作用・抗酸化ストレス作用の検討

③国際学会発表助成

5 件の応募があり、以下 5 件を採択した。

氏名	所属	発表論文	学会名および開催地
浅沼 瞳	昭和大学	Study on a Nursing Support Program to Alleviate Reality Monitoring Error in Schizophrenic Patients (統合失調症者のリアリティ・モニタリング・エラーに対する看護支援プログラムの検討)	Sigma's 31st International Nursing Research Congress (アラブ首長国連邦・アブダビ)
上原 明子	清泉女学院大学	“I Feel the Lack of Midwifery Autonomy”. Assessment of a One-Year Post-Nursing Midwifery Curriculum in Japan:A Qualitative Interview Study (“助産師の自律性に欠けているかのよう” 日本における助産師養成 1 年課程のカリキュラム評価: 質的研究)	An International Association for Medical Education in Europe 2020 (イギリス・グラスゴー)
永野みどり	東京慈恵会医科大学	CHARACTERISTICS OF PATIENTS WITH PRESSURE INJURIES FOUND UPON HOSPITALIZATION WHO DIED DURING ADMISSION (急性期病院在院中に死亡する入院時褥瘡保有患者の特性)	World Union of Wound Healing Society (アラブ首長国連邦・アブダビ)
房間 美恵	宝塚大学	Exploring the role of nurse in rheumatic care and feasibility of enhancing Treat to Target strategies in Japan (日本におけるリウマチ治療における看護師の役割と Treat to Target の実施の可能性の探索)	The European League Against Rheumatism (EULAR) Congress 2020 (ドイツ・フランクフルト)
三里久美子	共立女子大学	Continued family support from pregnancy to parenting at university (大学における妊娠期から育児期への継続した家族支援)	EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS (フィリピン・マニラ)

*応募時の情報です。

研究助成事業の応募状況と採択結果

【2016 年度から 2020 年度】

年 度	看護学研究奨励賞		若手研究者研究助成		国際学会発表助成		助成金総額 (千円)
	応募者数	採択者数	応募者数	採択者数	応募者数	採択者数	
2016 (平成 28) 年度	2	0	18	10	9	4	3,800
2017 (平成 29) 年度	8	4	20	10	5	2	3,800
2018 (平成 30) 年度	13	5	38	9	16	6	6,100
2019 年度	14	8	17	8	3	3	4,832
2020 年度	11	7	22	10	5	5	6,502
合 計	48	24	115	47	38	20	—

2) 学術研究および学術研究体制に関する事業

＜研究セミナー＞

(1) 第1回研究セミナーを Web 配信にて行った。

①研究助成受給者による研究成果発表

音声付きパワーポイントと抄録を9月19日～21日までの3日間ホームページに掲載した。

視聴回数：222回

1. 希少疾患患者のオンラインコミュニティにおけるサポートと、コミュニティに蓄積されたデータから Q&A 集を作成する試み
瀬戸山 陽子（東京医科大学）
2. 親向けの乳幼児予防接種教育プログラムの普及のためのガイドラインの開発
大塚 寛子（日本赤十字看護大学）
3. マタニティハラスメントを経験した就労女性の実態調査 - 相談の有無に着目して -
黒岩 美幸（東京医科大学）
4. 地域で暮らす高齢者の医療や終末期に対する認識と意思決定に影響を与える要因の検討
郷原 志保（国際医療福祉大学）
5. 産後の女性に特化した不安尺度の開発
永田 智子（横浜創英大学）
6. 救急外来における緊急度判定支援ツールの比較検討に関する研究- Emergency Severity Index の臨床応用を目指して -
高岡 宏一（関西福祉大学）
7. 分娩期における熟練助産師の「直観」に関する研究
山崎 智里（金沢医科大学）
8. 男性腎移植レシピエントにおける妊娠・出産に関する基礎的研究 - 腎移植を受けた男性レシピエントにおけるパートナーの妊娠・出産の体験 -
吉川 有葵（摂南大学）

* 採択時の所属校です。

②講演「看護における疫学研究の推進 - コロナの時代における量的看護研究の進め方 -」

講師：牧本 清子 先生（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 特任教授）

動画配信期間：2020年9月19日～12月19日

視聴回数：224回

(2) 研究セミナーを Web 配信にて行った。

①研究助成受給者による研究成果発表

音声付きパワーポイントと抄録を2月13日～15日までの3日間ホームページに掲載した。

視聴回数：428回

1. クリティカルケア領域においてせん妄を体験した患者の認知内容の解明
阿部 美香（順天堂大学）
2. 足部への保温が体温に及ぼす影響
大滝 周（昭和大学）
3. 患者に提供される看護量予測方法に関する研究 ―ビッグデータを活用した看護量予測―
児玉 悠希（日本赤十字秋田看護大学）
4. 患者の自殺に遭遇した看護師の心的外傷後成長（Posttraumatic Growth）―心的外傷後成長に至るプロセスに焦点を当てて―
武笠 佑紀（鈴鹿医療科学大学）
5. 出生時体重別の生後早期の栄養法と学童期の肥満度との関連背景
中山 香映（昭和大学）
6. 小児慢性疾患をもつ子どもの父親の経験から捉える Sense of coherence に関する研究
原口 昌宏（東京医療保健大学）
7. がん放射線療法看護の質評価指標の信頼性および妥当性の検討
日浅 友裕（中京学院大学）
8. 脳損傷による無反応性覚醒症候群患者の表情分析
肥後 雅子（大阪医科大学）
9. 処置を受ける幼児後期の子どもの覚悟していく姿
藤井 加那子（兵庫医療大学）
10. 地域で暮らす高齢者の終末期における訪問看護の特徴
村田 加奈子（昭和大学）

* 採択時の所属校です。

②講演「看護における疫学研究計画の実際」

講師：加藤 憲司 先生（神戸市看護大学看護学部 教授）

動画配信期間：2021 年 2 月 13 日～5 月 13 日

視聴回数：336 回

<委員会>

第 1 回研究活動委員会

開催日：8 月 5 日（水）

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：秋元、坂本、島袋、武田（五十音順 敬称略）

議題：1. 研究セミナーについて

2. 若手研究者研究助成受給者による成果発表の方法について

3. その他

第2回研究活動委員会

開催日：12月8日（火）

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：秋元、坂本、島袋、武田（五十音順 敬称略）

議題：1. 2021年2月に開催する第2回研究セミナーの開催方法

2. 2021年度の事業活動計画について

3. 研究助成事業について（募集要項および研究助成事業規程施行細則の改正について）

4. 研究助成選考委員について

5. 2020年度事業活動報告書（理事会報告案）

6. 研究助成受給者による研究成果発表 視聴回数報告

7. その他

第3回研究活動委員会

開催日：2021年2月16日（火）

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：秋元、坂本、島袋（五十音順 敬称略）

議題：1. 2021年度の研究助成のスケジュールについて

2. 2021年度研究セミナー開催地について

3. 2022年度以降の奨励賞と研究助成の在り方について

4. 紀要の位置づけについて

5. その他

4. 今後の課題

- ①会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進するために、日本私立看護系大学協会研究助成事業規程等の整備を行う。
- ②会員校の教職員が参加しやすい研究セミナー等の開催について検討する。

一般社団法人日本私立看護系大学協会
研究活動委員会
「第1回研究セミナー」アンケート結果
視聴者数：224人

配信期間：2020.9.19～12.19

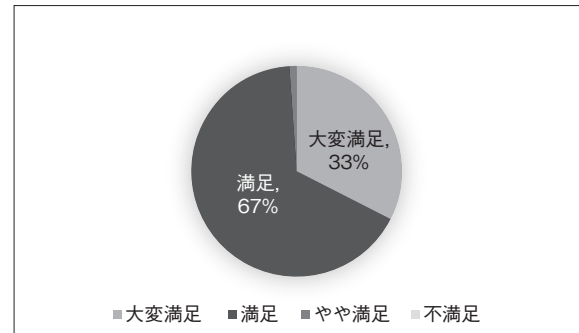
1. 講演内容について

講演「コロナの時代における量的看護研究の進め方」

講師：牧本 清子 先生（甲南女子大学）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	1人	33%
満足	2人	67%
やや満足	0人	0%
不満足	0人	0%
合計	3人	100%



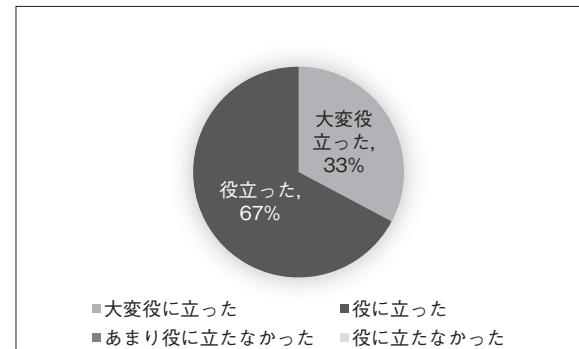
2) ご意見、感想など

- ・具体例を交えながら大変わかりやすい講義でした。
- ・とてもわかりやすかったです。

2. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	1人	33%
役に立った	2人	67%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	3人	100%



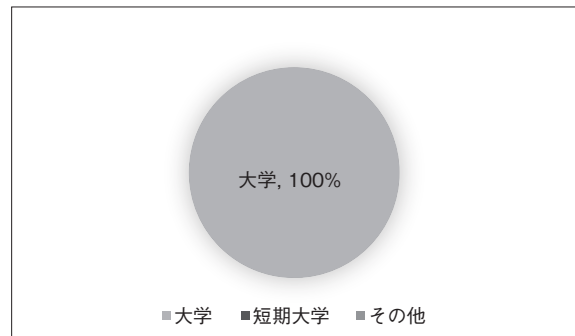
2) ご意見、感想など

- ・大学院で院生に研究指導する際に大変参考になりました。

5. 参加者について

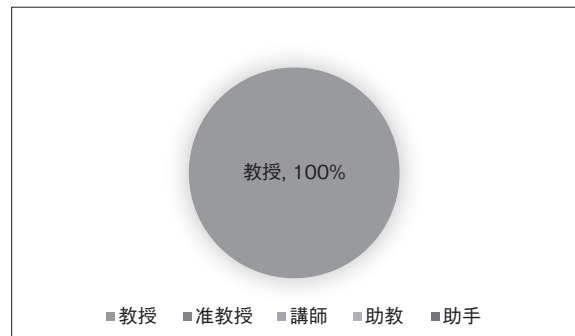
①所属

	人数	割合
大学	3 人	100%
短期大学	0 人	0%
その他	0 人	0%
合計	3 人	100%



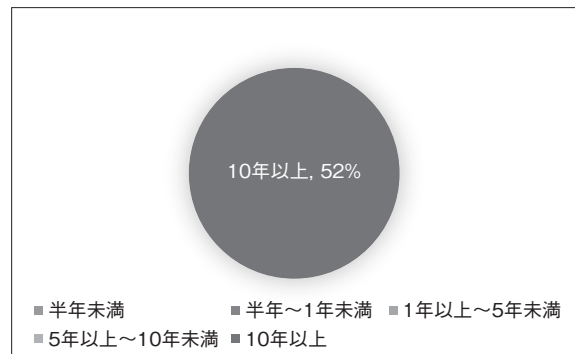
②職位

	人数	割合
教授	2 人	100%
准教授	0 人	0%
講師	0 人	0%
助教	0 人	0%
助手	0 人	0%
職員	0 人	0%
合計	2 人	100%



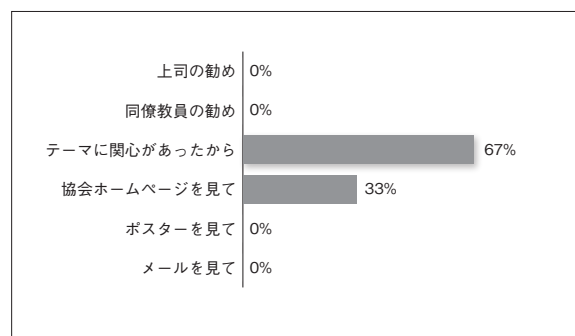
③在職期間

	人数	割合
半年未満	0 人	0%
半年～1 年未満	0 人	0%
1 年以上～5 年未満	0 人	0%
5 年以上～10 年未満	0 人	0%
10 年以上	2 人	100%
合計	2 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	0 人	0%
同僚教員の勧め	0 人	0%
テーマに関心があったから	2 人	67%
協会ホームページを見て	1 人	33%
ポスターを見て	0 人	0%
メールを見て	0 人	0%
合計	3 人	100%



一般社団法人日本私立看護系大学協会
研究活動委員会
「第2回研究セミナー」アンケート結果
視聴者数：336人

配信期間：2021.2.13～5.13

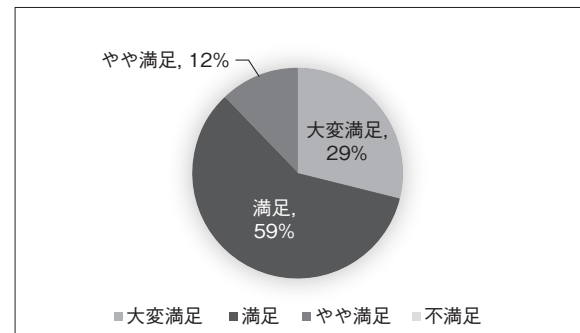
1. 講演内容について

講演「看護における疫学研究計画の実際」

講師：加藤 憲司 先生（神戸市看護大学 看護学部 教授）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	5人	29%
満足	10人	59%
やや満足	2人	12%
不満足	0人	0%
合計	17人	100%



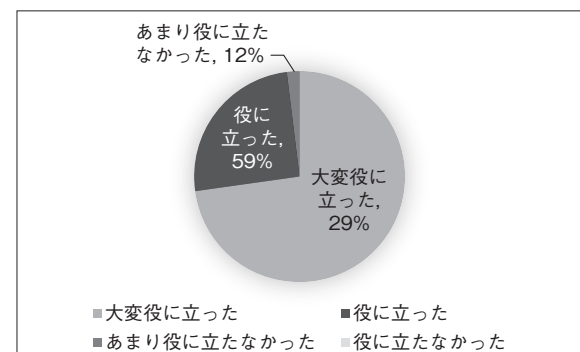
2) ご意見、感想など

- ・とても分かりやすかった。
- ・基礎的な部分ではありましたが、分かりやすくご説明いただいた。「実際」という部分では、概念的な部分が大半だという印象。具体的な手法の1つでもお聞きできたら大変満足であった。
- ・研究は未だ行ったことがありません。今回の講演を頭に入れて、挑戦していきたいと思う。
- ・研究についての確認ができた。
- ・もっと具体的なところを教えてほしかった。
- ・大変勉強になった。研究デザインとプロトコルの重要性を改めて認識した。
- ・疫学研究についてわかりやすく説明いただいた。
- ・はじめて量研究を行う場合サンプルは最低どれくらいあったらいいのか疑問です。

2. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	5人	29%
役に立った	10人	59%
あまり役に立たなかった	2人	12%
役に立たなかった	0人	0%
合計	17人	100%



2) ご意見、感想など

- ・もっと深いところも欲しい。
- ・量的研究でなければ明らかにならないような PQ を考えられた時には、ためらわずにチャレンジしていこうと思うことができた。
- ・いままで経験してこなかった領域なので、全てが勉強です。
- ・良い企画なので今後も計画してほしい。

3. 今後、日本私立看護系大学協会「研究活動委員会」で行う事業について

1) テーマ

- ・今回の第2弾
- ・一つでもよいので、具体的な量的研究手法の実際をやや詳細に学べる機会が欲しい。また、質的研究におきましても、いろいろな書籍を読み漁りながら、どこまで自分か理解できたかやってみなければわからないところがありますので、こちらも1つの手法を取り上げていただいて詳細を理解し、活用できるレベルまで学んでいきたいと思った。
- ・新任なので初めて経験すること全てに興味がある。
- ・統計分析や英論文投稿のコンサルテーション
- ・研究活動と大学業務のバランスの取り方
- ・論文作成
- ・量研究の具体的な分析事例

2) 開催方法

- ・オンライン配信。
- ・Webだと自分の都合の良い日時で聞けるので良いです。
- ・オンライン開催のリアルタイムとオンデマンドの併存を希望。

3) 開催時期

- ・いつでも良い。
- ・若手の時期は、大学教育の講義・演習・実習の準備や対応などで1年があっという間に過ぎ去ってしまいます。今回のような年度の終わりは、1年を振り返るためにも開催時期としてよいと思います。
- ・授業や実習に影響のない時期が有り難いです。
- ・8月や2～3月あたりが良い。
- ・この時期で良い。
- ・夏休みや春休みが良い。

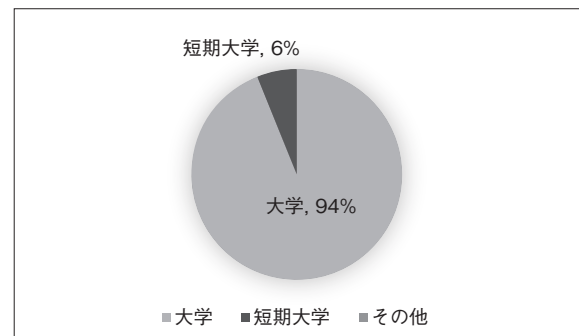
4) 場所

- ・場所があまり影響されない Web がいい。
- ・現地開催であるならば、東京ばかりでなく、地方でも開催してほしい。
- ・オンライン開催が良い。

4. 参加者について

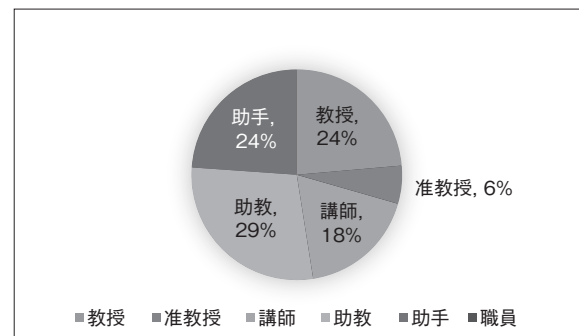
①所属

	人数	割合
大学	16 人	94%
短期大学	1 人	6%
その他	0 人	0%
合計	17 人	100%



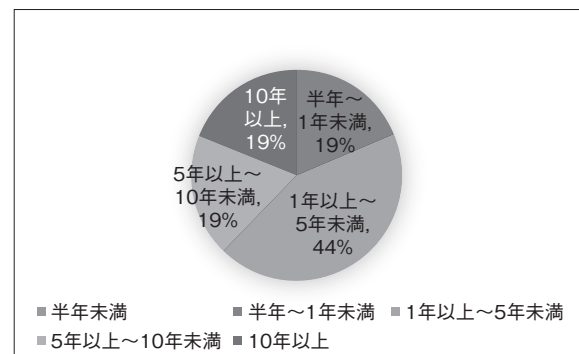
②職位

	人数	割合
教授	4 人	24%
准教授	1 人	6%
講師	3 人	18%
助教	5 人	29%
助手	4 人	24%
職員	0 人	0%
合計	17 人	100%



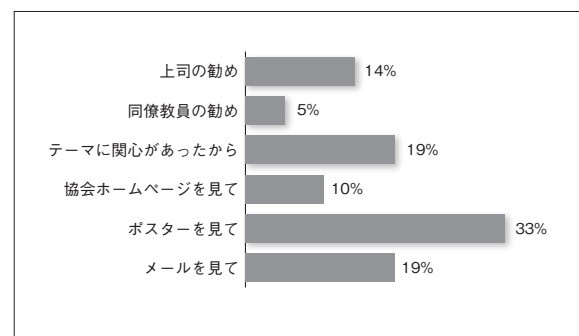
③在職期間

	人数	割合
半年未満	0 人	0%
半年～1 年未満	3 人	19%
1 年以上～5 年未満	7 人	44%
5 年以上～10 年未満	3 人	19%
10 年以上	3 人	19%
合計	16 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	3 人	14%
同僚教員の勧め	1 人	5%
テーマに関心があったから	4 人	19%
協会ホームページを見て	2 人	10%
ポスターを見て	7 人	33%
メールを見て	4 人	19%
合計	21 人	100%



3. 国際交流委員会

1. 趣旨

- ①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及び援助に繋がるための方策の調査研究
- ②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施
- ③上記①、②に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

田村 由美（日本赤十字広島看護大学）

○堀内 成子（聖路加国際大学）

（委員）

荒川 満枝（鳥取看護大学）

長松 康子（聖路加国際大学）

3. 活動報告

①研修会

1. テーマ：新型コロナウイルス パンデミックその時、国際交流で生じた問題と対応
2. 撮影日：2020年11月5日（木） 16：00～17：30
3. 開催方法：講演者はZoomを用いて講演し、参加者の委員4人＋理事が代表して質問する。
その模様を後日Web配信する。
4. 配信期間：2020年11月26日～2021年2月26日
視聴回数：967回

5. 内容：

- ・新型コロナ流行による国際交流事業の派遣活動における問題と対応
- ・新型コロナ流行による国際交流事業の受け入れにおける問題と対応
- ・開催できなかった国際交流活動の単位付与における対応
- ・新型コロナ流行による教員・大学院生の国際フィールド研究活動に関する問題と対応
- ・with コロナ下における国際交流活動や国際フィールド研究活動の展望

6. プログラム

開会挨拶

講演1 講師：日本赤十字看護大学 教授 渋谷 真樹 氏

質疑応答

講演2 講師：北海道医療大学 国際交流推進センター長・教授 安彦 善裕 氏

質疑応答

講演3 講師：西九州大学 准教授 床島 正志 氏

質疑応答

閉会挨拶

②委員会

第1回国際交流委員会

開催日：8月6日（木）

開催方法：Zoom

議題：1. メンバー紹介

2. 本委員会の活動内容の確認

3. 今年度の活動計画

4. 今後の活動予定

4. 今後の課題

グローバル化の加速する社会において活躍できる人材の育成の重要性が増している。社会のニーズに対応する看護学教育のあり方およびカリキュラムの体系化について議論を進めるとともに、大学の全教職員がグローバル化に取り組むことの発想の転換が求められている。大学の教職員の意識の変革を行う方策を見出すための議論を進めていく。また、2019年度末に生じたCOVID-19パンデミックにより、国際交流教育を中止した大学も少なくない中で、国際交流教育についても多くの課題が残された。課題解決に向けた取り組みが必要である。

一般社団法人日本私立看護系大学協会
国際交流委員会

「新型コロナウイルス：パンデミックその時 国際交流で生じた問題と対応」アンケート結果

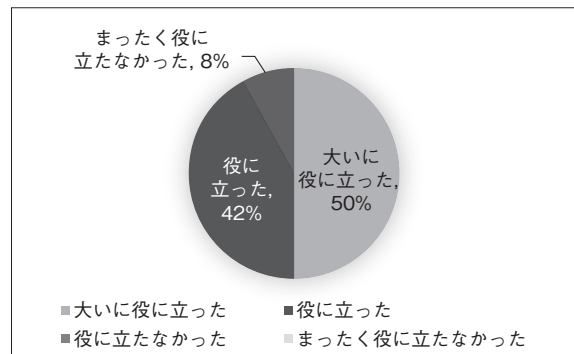
配信期間：2020.11.26～2021.2.26

1. 講演内容について

講演1 日本赤十字看護大学 渋谷 真樹 教授

1) 内容について

	人数	割合
大いに役に立った	6人	50%
役に立った	5人	42%
役に立たなかった	0人	0%
まったく役に立たなかった	1人	8%
合計	12人	100%



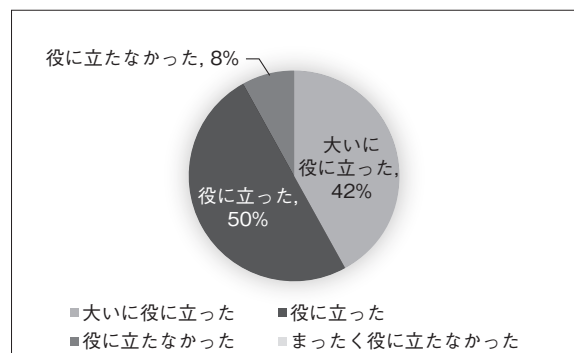
2) ご意見、感想など

- ・決定のプロセスを詳しくご紹介してくださり、迅速な対応が可能となるためには日頃から関係者・関係機関との連携や情報収集が大切だと感じた。
- ・海外とのオンライン授業を開始された場合には、また教えていただきたいと思った。
- ・パンデミック時における国際交流について時系列で緊迫した状況下の対応についてご説明され、大変参考になった。
- ・派遣中のパンデミック宣言で、苦労されたことがよくわかりました。非常事態の際にどこでどのような決定をしていくのかに関してシステム作りが必要だと感じた。
- ・赤十字社をとおして姉妹校提携先を広く求めることができている。また、逆に日本に受け入れる素地として赤十字病院関係の臨床からの協力を得られている。コロナ禍で研修生を送りだす経緯については綱渡り状態であったと推察しますが、両大学が協力して研修生に関わっておられた様子がわかり未来への希望を感じた。

講演2 北海道医療大学 安彦 善裕 教授

1) 内容について

	人数	割合
大いに役に立った	5人	42%
役に立った	6人	50%
役に立たなかった	1人	8%
まったく役に立たなかった	0人	0%
合計	12人	100%



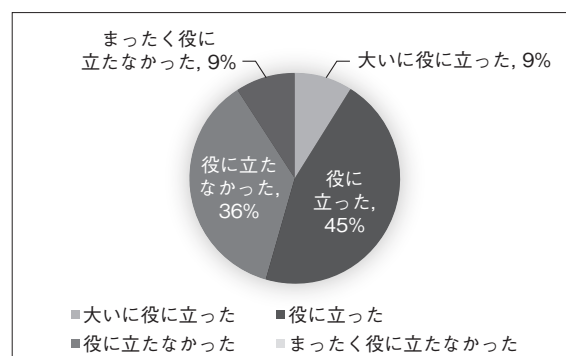
2) ご意見、感想など

- ・オンライン交流会を企画をするにあたって、語学力の影響が大きいことを考慮した事前準備や工夫が必要であると感じた。(対面の場合、ものすごい入力スピードで翻訳アプリを使いこなして、交流をする韓国や日本の学生の姿を見てきたが、オンライン画面でも翻訳ソフトのようなものの助けを借りながら、交流に対して敷居を低くできることが実現するとよいのに…と思った)
- ・大学の規模が異なるし、日常から留学生を受け入れている大学でしたので、羨ましく思った。ただ、ご苦労は多いのだろうと思うが・・・。
- ・国際交流に関する学生の関心について調査された結果に、改めて国際交流活動の推進が必要なのだと実感した。
- ・「国際交流推進センター」の組織作りや教員 FD の促進や挑戦する学生の育成に役立たせようとしている意気込みが伝わった。医療制度が発展途上の国では、経済的支援があれば、我が国で資格や学位を取得したいというニーズがあることを感じた。

講演 3 西九州大学 床島 正志 准教授

1) 内容について

	人数	割合
大いに役に立った	1 人	9%
役に立った	5 人	45%
役に立たなかった	4 人	36%
まったく役に立たなかった	1 人	9%
合計	11 人	100%



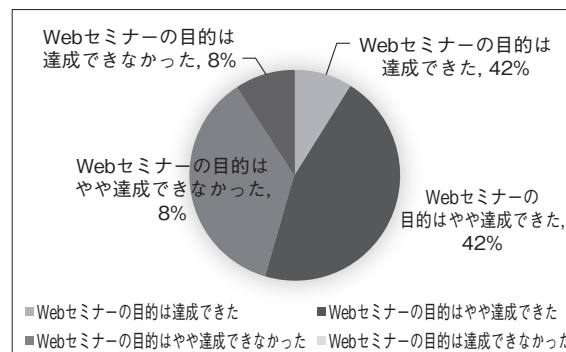
2) ご意見、感想など

- ・複数の学部、学科があることや地域との連携は、御校の強みであると思った。
- ・日本にいる留学生との交流や地域や市のプログラムとの協働について、知ることができ、新たな視点で企画を考えていこうと思った。
- ・異文化交流に力を入れて「アジア・コミュニティカフェ」を開催したり、コロナ禍でのメールや zoom による研究活動継続の努力などについて、大変励まされる報告だった。

2. 研修会全体について

1) 企画について

	人数	割合
Web セミナーの目的は達成できた	5 人	42%
Web セミナーの目的はやや達成できた	5 人	42%
Web セミナーの目的はやや達成できなかった	1 人	8%
Web セミナーの目的は達成できなかった	1 人	8%
合計	12 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・ Web 開催で多くの会員が聴けるのでこの方法でコロナ収束後お願いします。
- ・ 次年度の計画を考えるにあたって、ちょうど知りたいと思っていた内容でした。研修会場で直接お話を聞いたり、ご参加の方々と知り合ったりできる経験は貴重かつ有用な機会であると考える一方、長距離移動をしないで済むこと、そして多くの教職員が視聴できることは Web 開催の大きな利点だと思いました。
- ・ 今回は、新型コロナウイルス感染症によるパンデミック宣言の前と後での短期的な対応をされた事例と思いますが、with コロナの時代で長期的な視点で（限界はありますが）計画的にどのようにしていくのか、予算をどのようにつけていくのか等も入れていただけると良いと思います。教育現場はコロナ対応で大変な中ですので、それでも国際交流等への目を向けていくことについて工夫できる点があればと思います。
- ・ コロナ禍での国際交流で生じた問題に対して、発表された各大学とも想像以上の努力をされていることに感銘を受けました。また、学生の意識調査をされた大学の結果では、過半数の学生が国際交流に関心を持っているとのことでした。キャンパス内に多様な国籍の留学生が学んでいた、生活していたりする光景は未来の姿として、あらゆる大学の学生に体験して欲しいと感じました。
- ・ 留学生との交流など、大学間で単位互換を考慮し、同系統の学部での学生の行き来が必要と考えます。

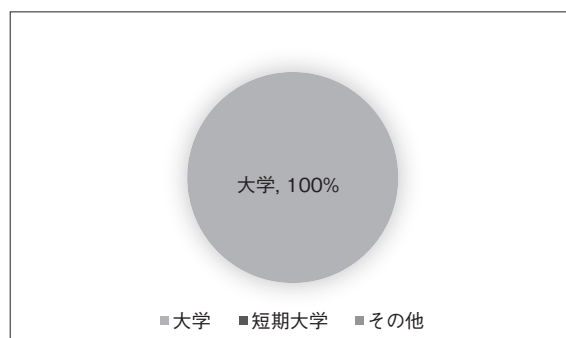
3. 今後の研修会について

- ・ 留学生と感染症について、情報収集、判断、実践の実際について知りたいです。
- ・ オンライン学生交流会に関する工夫や実践例について
- ・ Web 開催だと助かります（開催時期、場所の希望は特になし。会場開催と Web 配信の同時開催はご負担が多くなると思うので、いずれかの方法のみで構いません）。
- ・ コロナ禍での国際交流の工夫をお聞きしたいです。
- ・ オンラインでのセミナー配信ありがとうございました。
- ・ 国際交流だけではないのですが、年に1, 2回の研修でもオンラインで受講できることは聴講者を増やすことになり、意味深いものと考えます。その時々ニーズにあったオンライン研修企画を毎年お願いします。

4. 参加者について

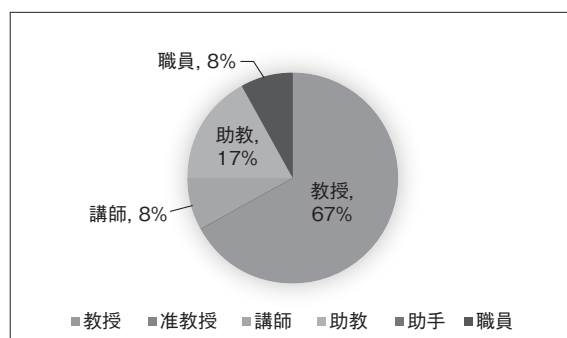
①所属

	人数	割合
大学	12 人	100%
短期大学	0 人	0%
その他	0 人	0%
合計	12 人	100%



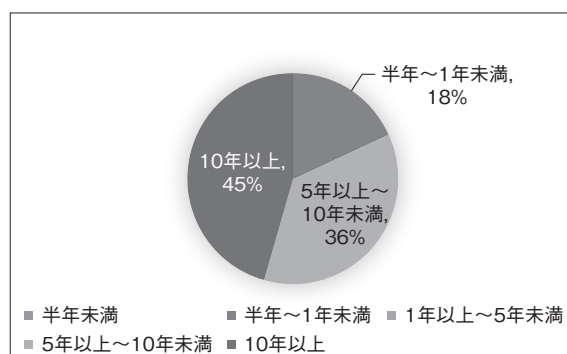
②職位

	人数	割合
教授	8 人	67%
准教授	0 人	0%
講師	1 人	8%
助教	2 人	17%
助手	0 人	0%
職員	1 人	8%
合計	12 人	100%



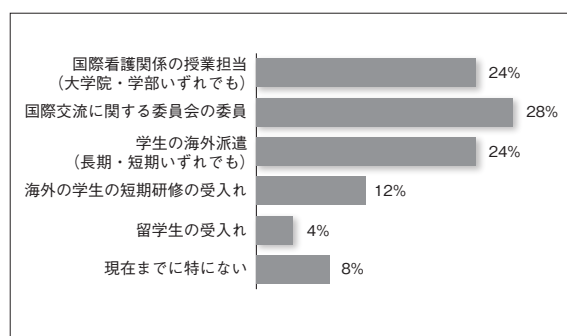
③在職期間

	人数	割合
半年未満	0 人	0%
半年～1 年未満	2 人	18%
1 年以上～5 年未満	0 人	0%
5 年以上～10 年未満	4 人	36%
10 年以上	5 人	45%
合計	11 人	100%



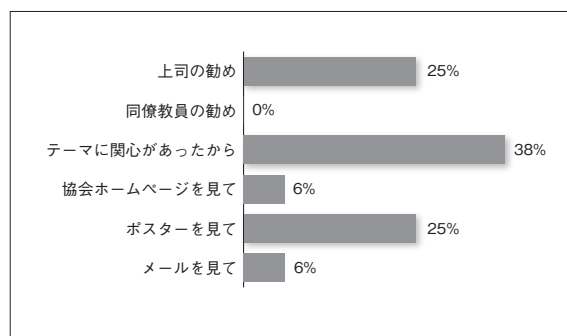
④国際看護や国際交流に関して（複数回答可）

	人数	割合
国際看護関係の授業担当 (大学院・学部いずれでも)	6 人	24%
国際交流に関する委員会の委員	7 人	28%
学生の海外派遣 (長期・短期いずれでも)	6 人	24%
海外の学生の短期研修の受入れ	3 人	12%
留学生の受入れ	1 人	4%
現在までに特にない	2 人	8%
合計	25 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	4 人	25%
同僚教員の勧め	0 人	0%
テーマに関心があったから	6 人	38%
協会ホームページを見て	1 人	6%
ポスターを見て	4 人	25%
メールを見て	1 人	6%
合計	16 人	100%



4. 大学運営・経営委員会

1. 趣旨

- ①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体又は民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析
- ②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の調査研究
- ③上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

鎌倉 やよい（日本赤十字豊田看護大学）

齋藤 ひろみ（仙台青葉学院短期大学）

長澤 正志（淑徳大学）

○春山 早苗（自治医科大学）

3. 活動報告

1) 委員会

第1回大学運営・経営委員会

開催日：8月3日（月）

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：1. 委員長について

2. 看護系大学・短期大学に関する実態調査について

3. 研修会について

第2回大学運営・経営委員会

開催日：2021年2月9日（火）

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：1. 2021年度事業活動計画について

2. 看護系大学の教育等に関する実態調査について

3. その他

2) 研修会

テーマ：広報に活用するIR～危機管理を含めて～

開催日時：2020年10月26日（月）13時30分～16時10分

開催方法：Web配信（後日、動画配信あり）

プログラム：

13：30～ 会長挨拶、講師紹介

13：35～ 講演1「IRの果たすべき役割と可能性～学生募集や広報への活用や危機管理を巡って～」

講師：福島 真司氏（大正大学 エンロールメント・マネジメント研究所 所長

／IR・EMセンター センター長／地域創生学部 教授）

14：35～ 休憩

14：40～ 講演2「データから読み解く受験生のニーズ」

講師：小林 浩 氏（株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

リクルート進学総研 所長 リクルート「カレッジマネジメント」編集長）

15：40～ 休憩

15：45～ 質疑応答

16：05～ 閉会挨拶

結果：当日参加者 115 名

アンケート：別添

動画配信期間：2020 年 11 月 10 日～2021 年 2 月 10 日

3) 看護系大学の教育等に関する実態調査について

調査期間：2020 年 11 月 9 日（月）～12 月 7 日（月）（12 月 25 日（金）まで延長）

日本看護系大学協議会・日本私立看護系大学協会合同調査プロジェクト合同会議

開催日：9 月 25 日（金）

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

議題：1. スケジュールについて

2. 調査票について

JANPU データベース委員会、日本私立看護系大学協会、株式会社アクロス合同打ち合わせ

開催日：2021 年 2 月 19 日（金）

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

議題：1. 2019 年度看護系大学に関する実態調査（2020 年度実施）の集計について

2. 今後の検討事項

4) 看護系短期大学の教育等に関する実態調査について

昨年度の実態調査質問紙を基に短大版を修正

調査期間：2020 年 11 月 9 日（月）～12 月 11 日（金）

短期大学 11 校へ調査依頼文郵送、メール配信した。

4. 今後の課題

1) 看護系大学の教育等に関する実態調査結果の活用について

2018 年度から日本看護系大学協議会と合同調査になった。調査結果から学費の格差が明らかとなった。私立大学系には大学独自の奨学金制度が設けられていた。経済的学修環境の整備について提言する方策を考えることである。

2) 研修計画

大学運営・経営強化のために年 1 回研修会を企画している。教育の質向上および補助金獲得等の知見が得られる企画を立案していくことである。

一般社団法人日本私立看護系大学協会

大学運営・経営委員会

「広報に活用する IR ～危機管理を含めて～」アンケート結果

参加者数：115 人 アンケート回答者数：75 人（回答率：65.2%）

開催日：2020.10.26（月）

Zoom を用いたライブ配信

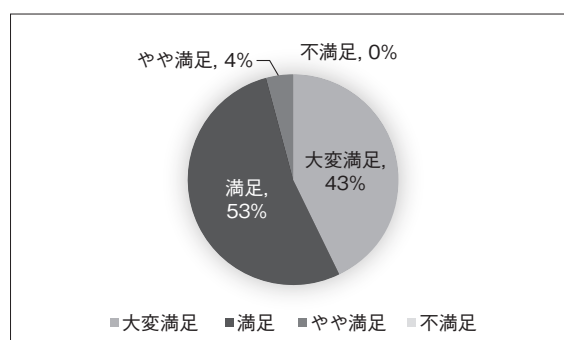
1. 講演内容について

講演 1. 「IR の果たすべき役割と可能性 ～学生募集や広報への活用や危機管理を巡って～」

講師：福島 真司 先生（大正大学）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	32 人	43%
満足	40 人	53%
やや満足	3 人	4%
不満足	0 人	0%
合計	75 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・現代の高校生の進学事情と広報の在り方が把握できました。
- ・IR 分析の考え方が理解できた。
- ・参考になりました。ただ、速すぎて、オンラインでこれだけの時間になると集中するのが厳しかったです。
- ・色々な大学の事例をご紹介いただき、大変参考になりました。
- ・とてもわかりやすい内容で、なおかつ、意義あるものだった。
- ・今後、大学をより理解してもらうための、具体的方法とその根拠について知ることができました。
- ・会議が入ってしまい最後の 30 分しか聞けませんでした、それでも参考になりました。
- ・幅広い話が聞けて良かったです。
- ・紹介のあった大学のホームページを参考にしたいと思います。
- ・とても勉強になりました。
- ・IR の活用について大変勉強になりました。福島先生のご講義は時間が足りずに残念です。また、IR 関連教員しか視聴していないため、入試担当をはじめ看護学部のみならず他の教職員も視聴するよう、先生単独の講演会を再度お願いしたいと思います。
- ・かなり有益な情報があり、今後の参考にさせていただきます。
- ・他大学の例なども紹介され、わかりやすい内容でした。
- ・具体的な事例を知ることができました。
- ・新鮮でした。PR の意味をあらためて確認いたしました。

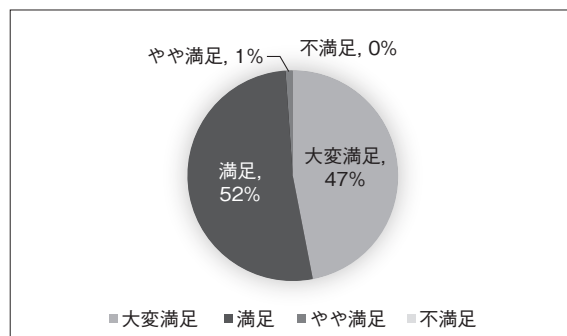
- ・ IR 関連について、他大学の取り組み等を具体的にご説明いただき、とても分かりやすかったです。
- ・ 最新の IR 情報を網羅して頂き、勉強になりました。
- ・ 広報担当者として IR について学ばねばと思いつつ、まとまった時間が取れずにいたところ、非常に効率よく、当方のニーズにあった情報を提供して頂き、本当によい勉強になりました。私は看護職ではなくコミュニケーション学を専門としておりますため、福島先生がおっしゃっていた「広報における倫理性」に関して特に深く共感する部分がありました。
- ・ Life Time Value という観点から、卒業後までの期間という視点を示して頂きとても参考になりました。また最終的に IR,PR が大学マネジメントのあり方、という点に共感と課題を感じました。
- ・ IR が担う役割が自分の中で不明確でしたが、データに基づく大学の魅力をどのようにアピールできるかも含めてデータを構成する必要があることを学びました。
- ・ 各大学の取り組みについてこういった手法で IR 情報をまとめているか、もう少し掘り下げて紹介していただけたらと思いました。
- ・ 時間の割に内容について盛り込みすぎている。要点を絞っていただいても良い。
- ・ 初めて知ったこと、思い出したこと等とても役立った研修でした。
- ・ IR と広報の関連についてよくわかった。
- ・ 4 年前に福島真司先生を自大学へお招きし、科学的マーケティング手法をマネジメントサイクルに取り入れ、地方小規模大学の持つ可能性を高めていく方法について研修した。残念ながら当時は EM や IR についての関心が薄く、大学の取り組みに繋げることは出来なかったが、現在は学内に IR 部門が置かれ「教学 IR」が機能し始めている。今後は各部門データへのアクセス権限が整備され、全学的な IR の導入、そして学生たちを知り抜く EM の文化が花開くことを期待している。
- ・ ターゲットを絞り焦点を当てた広報活動について理解できました。
- ・ ただデータを集める、分析するのではなく、まず教育理念・倫理観があって、目指している教育に近づいているのかどうかを分析することが重要であることを改めて教えていただきました。

講演 2. 「データから読み解く受験生のニーズ」

講師：小林 浩 氏（株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	35 人	47%
満足	39 人	52%
やや満足	1 人	1%
不満足	0 人	0%
合計	75 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・ Web を利用した多様な取り組みを知ることができました。

- ・看護に特化したデータ等もあり、大変興味深く拝聴した。
- ・高校生について知ることができた。
- ・実際にデータを使ってどう広報戦略につなげるかがイメージできました。また、広報戦略としてもとても参考になりました。
- ・タイムリーな内容でとても参考になった。
- ・保護者も含めた高校生のニーズを知ることができました。
- ・実務につながる話が聞けたと思います。
- ・現在の高校生の動向が理解でき参考になりました。
- ・とても勉強になりました。
- ・時間とデータが一致していたが、さらなる提言を頂いて戦略に生かしたいと思いました。
- ・数字で見る大学の話がとても興味深く今後の広報においてヒントを得た気がします。
- ・受験生のニーズやオープンキャンパスの運営に関する内容が参考になりました。
- ・大変わかりやすい説明でした。
- ・後半（コロナ禍での・・・）の内容がありがたかったです。
- ・IR 関連の話は、大学内でも研修会等で聞いておりますが、看護系大学に特化した話は初めてでした。
- ・広報情報について自校の情報と比較できました。
- ・「エビデンスに関する広報」を展開したいと思いつつ、日頃は大学生全体のデータしか得られないことが多く、必ずしも看護系志望者に当てはまらないことに歯がゆさを感じておりましたが、看護系志望者の動向に的を絞った小林先生のお話は大変有益でした。今後の広報活動に活用させていただきます。ありがとうございました。
- ・近年のマーケット状況から、どのように自学の価値に浸透させ、経営戦略にまで具体化、可視化させるか。という課題に対し幾つかの具体ポイント、テーマ、ワードをお示し下さり大変参考になりました。
- ・具体的な戦略を含め、これからのオープンキャンパスの目的やコンテンツを考えていく手がかりをいただきました。
- ・講演を聞き、アンケートの集計目線で新たな気づきができました。
- ・高校生の情報、オープンキャンパスのあり方について参考になった。
- ・漠然としていたことを数値、順位等で知ることができて参考になりました。
- ・看護を志向する受験生がどのような動きをしているのかよく分かった。これらを広報活動に生かしていきたいと思った。
- ・学生募集や入学試験は、各大学において「年間行事」として当たり前に行われているが、看護系大学は少子化の中でも募集が極めて堅調であり「あまり困っていない大学」が多いためということもあるのか、生き残りを図るために死にものぐるいになっている他分野の大学に比べると、まだまだ声の大きな教員の（昔の成功体験に基づく）勘や経験に基づいて動いているといった感覚が強く、小林浩先生が研修の中で強く主張されていた「選ばれる大学になるために必要な経営戦略」「エビデンスベースで受験生のニーズを捉えることが必要」という点については、決して真剣に取り組まれていないように感じている。データサイエンス必修化と言われる時代に向けて、

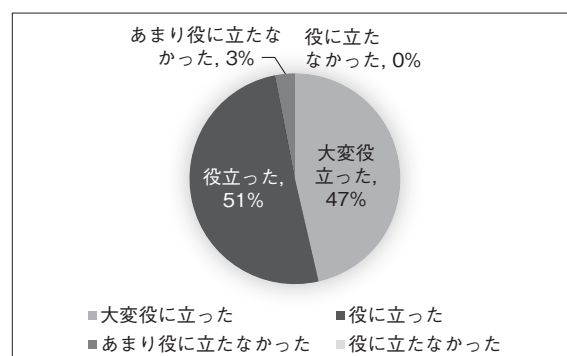
科学的マーケティング手法をマネジメントサイクルに取り入れ、学生や保護者に選ばれる大学になるために、看護系大学こそ「死にものぐるい」で取り組む時代にきているのではないかと。

- ・現在の高校生の状況が理解でき、特に、WEB OC への参加が少ないことにより、入学後のミスマッチが生じる危険性について知る機会となりました。この点についてこれまで以上に留意して、入試の面接に活かしていきたいと思います。
- ・高校生はどのように進路を選択しているのか、なぜ大学を選ぶのかということについて知り、オープンキャンパスの内容についてもっと考える必要があると思いました。

2. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	35 人	47%
役に立った	38 人	51%
あまり役に立たなかった	2 人	3%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	75 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・タイムリーな企画であったと思う。
- ・参考になりました。
- ・非常に良い企画でした。定期的な開催を希望します。
- ・とても勉強になりました。
- ・AP など学生獲得のための戦略に役立つと思います。
- ・今まさに自分が取り組んでいる課題でしたので、勉強になりました。
- ・とても参考になり、良い企画でした。
- ・ちょうど来年度に向けた広報戦略を立てる時期であり、最良のタイミングであったと思います。
- ・コロナ禍で大学の広報戦略が大きく変わる中、手探りで様々な企画を立案し実施してきました。今回のご講演を受けてそれが間違っていなかったと思うと同時に、今後の方向性も見えてきた気がします。小さな単科大学にとってこのような専門的な方々のマーケティング戦略をお聞きする機会は貴重でした。
- ・次回開催があれば是非参加したいと考えております。
- ・今回の内容は各々 1 回の研修で扱ってもよい内容だったと思います。
- ・少子化が進む中での受験については大きな課題であるので、ありがたい企画であった。
- ・大学の理念、3 ポリ、広報、入試などの繋がりについて全体像を提示してくださったことで、改めて理解する機会となりました。その中で広報や入試をどのように実施していくのか、単独ではなくまとまりをもって考えていくことが重要であると理解できました。
- ・いろいろな示唆を得ることができ、感謝しています。資料をいただいたこともとても良かったです。

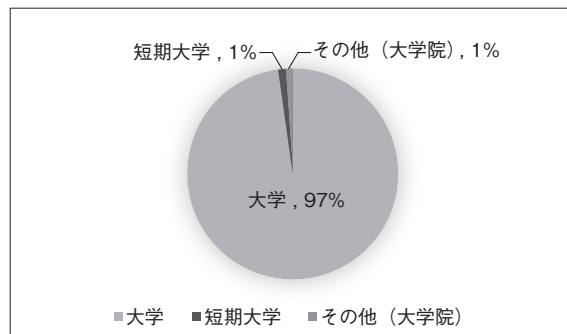
3. 今後、本協会「大学運営・経営委員会事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

- ・新設校において、学習環境の整備（奨学金も含む）のための寄付について、どのような対応が求められるのかを知りたい。
- ・新人看護教員の教育力の向上について知りたい。
- ・教育の質向上に関すること、障害を持つ学生への支援について知りたい。
- ・初めての ZOOM 開催だと思いますが、移動の時間が節約できてよかったと思います。
- ・開催方法は、オンラインまたはオンライン併用であると受講しやすく、助かります。開催日は平日より土日の方が、受講の都合がつけやすいかと思います。
- ・看護学や看護教育について勉強や研究をしてみましたが、自分が経営という視点から大学教育を考えることになるとは思っていませんでした。非常に興味がある、とまでは言えませんが、避けて通れない課題として、大学運営・経営について、基本的なことやトピックスについて、今後もしも取り上げていただけるとありがたく思います。
- ・オンライン研修会が良い。
- ・対面での開催が可能になっても、オンライン参加の余地を残しておいて頂けると大変ありがたく存じます。
- ・「教学マネジメント」等、直近の文部行政、中教審答申などの解説や対応についての講演を希望します。
- ・今回のようなオンライン形式の開催は参加が容易でしたので、今後も続けていただきたいと思いました。
- ・他大学の IR としての情報の活用の仕方や、取りまとめ公開の方法等を紹介していただきたいです。
- ・広報に続き、より「教育の改善に役立つ IR」について研修実施していただければと思います。
- ・オンライン開催は業務の合間に参加しやすく、ありがたかった。
- ・大学設置基準の改正により、教員と事務職員等の連携及び協働（教職協働）が求められている。大学教員を取り巻く職務環境の変化から、教員・事務職員等の垣根を越えた取組が一層必要となっているが、まだまだ決して「求められる教職協働の姿」になっているとは言えないように感じている。教学マネジメントを支える基盤としての IR、FD/SD が求められる時代を迎え、学位を有する大学職員をスタッフに据え、教職協働が機能している先進的な大学の事例を知りたい。
- ・出口戦略の一つに就職があり、看護系大学卒業生の就職の状況や、就職先の病院等の現状について知る機会があるとありがたいと思います。開催方法は WEB の方が参加しやすいと考えます。

5. 参加者について

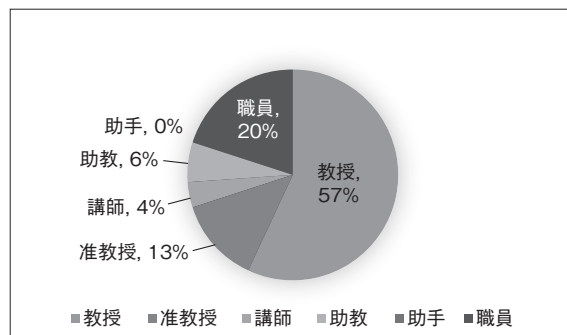
①所属

	人数	割合
大学	73 人	97%
短期大学	1 人	1%
その他（大学院）	1 人	1%
合計	75 人	100%



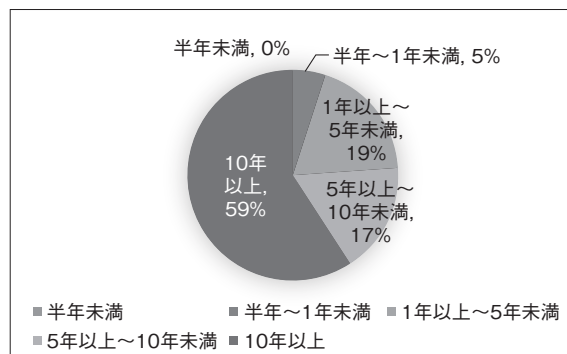
②職位

	人数	割合
教授	40 人	57%
准教授	9 人	13%
講師	3 人	4%
助教	4 人	6%
助手	0 人	0%
職員	14 人	20%
合計	70 人	100%



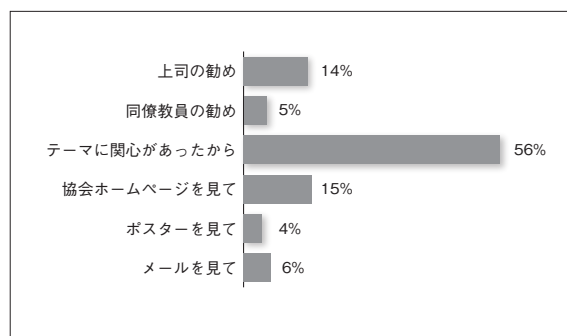
③在職期間

	人数	割合
半年未満	0 人	0%
半年～1 年未満	4 人	5%
1 年以上～5 年未満	14 人	19%
5 年以上～10 年未満	13 人	17%
10 年以上	44 人	59%
合計	75 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	12 人	14%
同僚教員の勧め	4 人	5%
テーマに関心があったから	47 人	56%
協会ホームページを見て	13 人	15%
ポスターを見て	3 人	4%
メールを見て	5 人	6%
合計	84 人	100%



5. 渉外委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理
- ② 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施
- ③ 啓発活動のためのセミナーの実施
- ④ 上記①～③に関連する情報等を本法人の理事会及び総会へ報告する

2. 担当理事および委員（○：委員長）

河口 てる子（日本赤十字北海道看護大学）

島袋 香子（北里大学）

長澤 正志（淑徳大学）

○山本 あい子（四天王寺大学）

3. 活動報告

I. Nursing Now キャンペーンへの参画

【実行委員会】

○ 2020 年 9 月 11 日（金）14：00～16：00 Zoom 開催
議題

1. Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン について

- 1) 開催概要
- 2) 参加団体の活動紹介の協力依頼
- 3) パブリックビューイング会場の設置への協力依頼

2. 今後のキャンペーン展開について

- 1) 広報活動
- 2) 今後のスケジュール
- 3) 各団体の進捗 について の意見交換

○ 2020 年 11 月 18 日（水）10：00～12：00 Zoom 開催
議題

1. Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン について

- 1) Nursing Now ニッポン宣言
- 2) 参加登録について
- 3) パブリックビューイングについて

2. 今後のキャンペーン展開について
 - 1) 広報活動
 - 2) 今後のスケジュール
3. 各団体の進捗 について の意見交換

○ 2021 年 3 月 18 日（木）10：00～12：00 Zoom 開催

議題

1. Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン開催報告について
2. Nursing Now ニッポン宣言への各団体の今後の取組みについて
3. キャンペーン展開について
 - 1) 広報活動
 - 2) 今後のスケジュール
4. その他

【フォーラム・イン・ジャパン】

実行委員の団体として、1 月 21 日開催の Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン分科会 3「災害に強いコミュニティ、安全安心な社会構築に向けた看護の貢献」のパブリックビューイング会場となった。参加団体紹介スライドが投影され、NursingNow サイト団体紹介ページにおいて、実施活動が掲載された。

Ⅱ. 高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会

【委員会】

○ 2020 年 11 月 5 日（木）9：00～11：00 Zoom 開催

議題

1. APN グランドデザイン案とその課題
2. APN グランドデザイン案とその課題について意見交換

○ 2020 年 12 月 10 日（木）9：00～11：00 Zoom 開催

議題

1. グランドデザイン（案）今後のスケジュールについて
2. JANPU 会員校への調査について（資料 1）
3. NP（JANPU-NP、協議会 NP）への調査について
4. CNS の成果と所属組織への調査について

○ 2021 年 1 月 15 日（金）13：00～14：20 Zoom 開催

議題

1. グランドデザイン（案）について
2. JANPU 会員校への調査について

3. 高度実践看護師教育課程認定委員会について
4. その他

○ 2021 年 2 月 24 日（水）15：00～17：00 Zoom 開催

議題

1. グランドデザイン（案）について
2. JANPU 会員校への調査について
3. その他

Ⅲ. 文部科学省への情報提供

文部科学省高等教育局医学教育課より、シミュレーション教育に関する好事例収集のための情報提供依頼があり、10 月 11 日に行った大学教育委員会研修会「シミュレーション教育に関する研修会 - コロナ禍におけるシミュレーションを用いた遠隔教育 -」について情報提供を行った。

4. 今後の課題

- ①文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、現状への認識及び今後の方針について理事会に報告する。
- ②日本私立看護系大学協会が必要とする関係機関と関係を深め、情報交換、意見交換するとともに、連携・支援に向けた働きかけをしていく。
- ③専門職大学の動向に関して情報収集し、広報や研修会を通して加盟校に情報の提供を行う。
- ④実習費に対する補助、費用抑制への活動等に対する文部科学省、厚生労働省等の情報収集、および合同データベースの中の実習費分析を行う。
- ⑤ナイチンゲール生誕 200 年を記念した看護界の Nursing Now キャンペーン活動。
- ⑥日本看護系大学協議会と高度実践看護師のグランドデザイン委員会への参画を継続する。
- ⑦小規模校の補助金関係について、各団体の活動に関する情報収集。

6. 広報委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の目的の達成に寄与するため会報及びその他刊行物の発行
- ② 会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
- ③ 本法人の活動の外部への PR のためホームページの企画運営
- ④ 上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 濱中 喜代（岩手保健医療大学）
- 三国 久美（北海道医療大学）
- 守田 美奈子（日本赤十字看護大学）

3. 活動報告

1) 会報の発刊

(1) 会報第 43 号を 2020 年 5 月に発刊

- ① 2019 年度事業活動報告
- ② 会員校の特色のある取り組みの紹介
- ③ 理事会報告
- ④ 事務局からのお知らせ

(2) 会報第 44 号を 2020 年 11 月に発刊

- ① 会長挨拶
- ② 新規会員校紹介（自校紹介と新型コロナウイルス感染症に関する対応）
- ③ 2020 年度研究助成事業の採択者及び論文抄録
- ④ 役員一覧
- ⑤ 社員総会・理事会報告
- ⑥ 事務局からのお知らせ

< 会報 44 号：例年との変更点 >

- ・ 2020 年度は新型コロナウイルス感染症対策として、恒例の講演会が中止となった。
- ・ 例年掲載している講演会記事の代わりに、コロナ感染症対策を踏まえた教育内容や方法に関する記事を新規会員校に原稿依頼し（新規会員校紹介内容記事に加えて）掲載した。

(3) 編集

原稿の依頼や原稿の受取は原則メールで行う。

(4) 配布部数

会員校：1 校 50 部

関係団体：約 120 部

2) 年次報告書の発刊

2019 年度年次報告書を 2020 年 7 月初旬に発刊、会員校に配布した。

3) ホームページの検討

現行ホームページの改修が課題であったため、新ホームページ構築に向けての検討と準備を行った。

4) 委員会の開催

第 1 回広報委員会

開催日：7 月 30 日（木）

開催方法：Zoom

参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（理事五十音順、敬称略）

議題：1. 引継ぎ

2. 今後の活動方針に関して

3. 今後の予定について

・ホームページの課題と改修にむけての検討

第 2 回広報委員会

開催日：9 月 2 日（水）

開催方法：Zoom

参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（理事五十音順、敬称略）

議題：ホームページの改修について

1. 今後のスケジュール

2. 現在のホームページへの意見・改善点の整理

第 3 回広報委員会

開催日：10 月 14 日（水）

開催方法：Zoom

参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（理事五十音順、敬称略）

議題：1. 第 44 号会報発行について

2. ホームページの課題と改修案について

3. 業者選択と今後のスケジュールについて

・業者への依頼内容の確認と依頼業者の選択

4. その他

第 4 回広報委員会

開催日：12 月 1 日（火）

開催方法：Zoom

参加者：河口てる子、濱中喜代、三国久美、守田美奈子（理事五十音順、敬称略）

コーディア（株）、（株）シュア、（株）文化工房 各担当者

議題：1. 依頼業者の決定について

- ・業者4社に見積り依頼を行い、予算の範疇にある業者3社からのプレゼンテーションを受けた。
- ・会長の参加のもと、プレゼン内容、費用を比較検討した結果、予算範囲の費用であること、ホームページの分かりやすさ（イメージの伝わりやすさ）、改修後のさらなる改善の方法のフォローアップ体制などの点で、1社（コーディア（株））を選択した。

2. 会報45号の構成について

第5回広報委員会

開催日：12月7日（月）

開催方法：Zoom

参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（理事五十音順、敬称略）

コーディア（株）荻島氏、中井氏

議題：ホームページ刷新の委託業者と初回打ち合わせ

- ・提案されたホームページの構成、デザイン案に関する意見交換を行った。
- ・3月末を目指して新HPの検討及び完成を目指すための工程を確認した。
- ・費用確認を行った。
- ・会員情報の提供は、各大学のホームページとリンクする方法とする。

第6回広報委員会

開催日：12月24日（木）

開催方法：Zoom

参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（理事五十音順、敬称略）

コーディア（株）荻島氏、中井氏

議題：ホームページ刷新の委託業者と打ち合わせ

第7回広報委員会

開催日：2021年1月15日（金）

開催方法：Zoom

参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（理事五十音順、敬称略）

コーディア（株）荻島氏、中井氏

議題：1. 理事会の確認

2. ホームページ委託業者との打ち合わせ

3. 会報第45号の会員校の特色のある取り組みの紹介（2校）について

第8回広報委員会

開催日：2021年2月3日（水）

開催方法：Zoom

参加者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（理事五十音順、敬称略）

コーディネア（株）荻島氏、中井氏

議題：1. ホームページについて

2. 会報第45号について

4. 今後の課題

- ・2021年度に新ホームページを開設する。
- ・新ホームページの運用により最新情報を発信する。新ホームページの活用状況の分析と新たな改善にむけての課題整理を行う。
- ・ホームページ、会報、年報、その他刊行物を効果的に活用して、協会の活動の発信内容の整理及び充実を図る。